

2019年度

法学政治学研究科
シラバス

成蹊大学大学院 法学政治学研究科

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
憲法基本研究I	藤井 樹也	1
行政法特殊研究I	巽 智彦	4
民法特殊研究I	高橋 朋子	6
民法基本研究I	淵 史彦	8
商法特殊研究I	湯原 心一	11
商法基本研究I	北川 徹	14
商法基本研究II	湯原 心一	17
刑事法基本研究III	金 光旭	21
民事訴訟法特殊研究I	北島 典子	24
国際法基本研究I	佐藤 義明	26
労働法基本研究I	原 昌登	29
英米法特殊研究	安部 圭介	32
刑事学基本研究	金 光旭	34
法社会学特殊研究	吾妻 聡	37
法社会学基本研究	吾妻 聡	39
民法基本演習II	塩澤 一洋	42
知的財産権法基本演習II	塩澤 一洋	45
政治学基本研究I	野口 雅弘	48
政治学基本研究II	西山 隆行	51
政治学基本研究III	平石 耕	54
政治学史特殊研究	平石 耕	57
日本政治史特殊研究	井上 正也	59
日本政治史基本研究	井上 正也	61
西洋政治外交史基本研究I	板橋 拓己	64
国際政治特殊研究I	遠藤 誠治	68
国際政治特殊研究II	光田 剛	70
国際政治基本研究III	光田 剛	72
アメリカ政治外交史特殊研究	西山 隆行	75
アメリカ政治外交史基本研究	西山 隆行	77
行政学基本研究I	西村 美香	80
政治社会学基本研究I	李 静和	83
政治過程論特殊研究	高安 健将	86
政治過程論基本研究	高安 健将	88
比較福祉政治論基本研究	今井 貴子	91
財政学特殊研究	浅羽 隆史	94
学際分野特殊研究(科学の考え方I)	瀬戸 一夫	96
学際分野特殊研究(科学の考え方II)	瀬戸 一夫	98

科目名	憲法基本研究 I		
教員名	藤井 樹也		
科目ナンバー	2060310002	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

【テーマ】
アメリカ憲法を専門的に研究します。

【概要】
修正1条論を中心テーマとします。個々のテーマに関連する英文資料等の講読を通じて、最先端の憲法問題を専門的に考えます。

到達目標

DP6（有用な研究課題の設定）、DP7（研究能力及び基礎的発信力）を実現するため、次の2点を到達目標とします。
①修正1条論を素材に、最先端の憲法問題を専門的に研究すること。
②修正1条論の諸問題の意義と内容を知り、説明できるようになること。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、成績評価の方法等を説明します。	
	【予習】 シラバスを読み、あらかじめ授業内容を把握しておいてください。 【復習】 授業の全体像や進め方、評価基準等について確認してください。	90分
第2回	I Foundational Issues 1. Free Expression and the Coustitution ・表現の自由と憲法を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第3回	1. Free Expression and the Coustitution ・表現の自由と憲法を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第4回	2. The Content Distinction ・内容による規制方法の区別を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第5回	2. The Content Distinction ・内容による規制方法の区別を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第6回	3. The First Amendment Toolkit ・修正1条の分析枠組を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第7回	3. The First Amendment Toolkit ・修正1条の分析枠組を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第8回	II The Categorical Approach 4. Illegal Advocacy ・違法な唱道を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第9回	4. Illegal Advocacy ・違法な唱道を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分

第10回	5. Defamation and Other Torts ・名誉毀損その他の不法行為を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第11回	5. Defamation and Other Torts ・名誉毀損その他の不法行為を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第12回	6. Offensive Language and Hate Speech ・不快な言論とヘイト・スピーチを考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第13回	6. Offensive Language and Hate Speech ・不快な言論とヘイト・スピーチを考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第14回	7. Sexual Material ・性表現を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第15回	7. Sexual Material ・性表現を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第16回	8. Commercial Speech ・商業的言論を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第17回	8. Commercial Speech ・商業的言論を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第18回	III Speech in Special Settings 9. Public Property ・公共の場での言論を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第19回	9. Public Property ・公共の場での言論を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第20回	10. Speech in the Public Sector ・公的施設での言論を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第21回	10. Speech in the Public Sector ・公的施設での言論を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第22回	11. The Media ・メディアの言論を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第23回	11. The Media ・メディアの言論を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分

第24回	1 2. Associations, Parties, and Political Campaigns ・結社、政党、政治活動の自由を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第25回	1 2. Associations, Parties, and Political Campaigns ・結社、政党、政治活動の自由を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第26回	IV Religion 1 3. Free Exercise ・信教の自由を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第27回	1 3. Free Exercise ・信教の自由を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第28回	1 4. The Establishment Clause ・政教分離を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第29回	1 4. The Establishment Clause ・政教分離を考えます。	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分
第30回	最終まとめ	
	【予習】 テキストの対応部分から割り当てられた課題を調査・検討してください。	90分

授業の方法

- ・予習が必要です。
- ・報告担当者による発表をもとに全員で議論します。
- ・開講時に報告担当者と担当内容を決定します。

* 修士論文提出予定者への配慮

受講者に修士論文提出予定者が含まれている場合、その希望に応じて中間報告等の機会を授業内に設けるなど、授業の計画・内容を柔軟かつ弾力的に組み替えながら、論文執筆をサポートします。

成績評価の方法

- ・平常点：100%
- ・授業参加を重視します。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠いたします。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

- ・次の点に着目し、その達成度により評価します。
- ①修正1条論を素材に、最先端の憲法問題を専門的に研究したか。
- ②修正1条論の諸問題の意義と内容を知り、説明できるようになったか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

【必要な予備知識】
修士課程の学生にふさわしい十分な研究能力が必要です。

テキスト

DANIEL FARBER, THE FIRST AMENDMENT (4TH ED. 2014, FOUNDATION PRESS)

参考書

必要に応じて随時紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知いたします。

科目名	行政法特殊研究 I		
教員名	巽 智彦		
科目ナンバー	2060310007	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

テーマ：「行政法判例を読む」
 概要：このゼミは、行政法分野の判例を分析することを通じて、行政法学をより踏み込んで理解するとともに、判例一般に関する分析能力を向上することを目的とする。素材は基本的に近時の最高裁判例を想定しているが、学生の関心に応じて柔軟に選択する予定である。
 ※なお、演習志望書には、報告を希望する判例（年月日および掲載誌を明記すること。可能であれば行政判例百選等の該当番号を記すこと）を明記し、当該判例を選択する動機となった自身の興味関心を具体的に示すこと。

到達目標
 行政法学をより踏み込んで理解するとともに、判例一般に関する分析能力を向上する。より具体的に言えば、自身で文献を調査し、判決の内容を分析し、判例評釈を執筆することを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	課題の設定	
	ゼミで判明した課題の調査・次回の準備	60
第2回	課題の設定(続き)	
	ゼミで判明した課題の調査・次回の準備	60
第3回	準備報告・討論	
	ゼミで判明した課題の調査・次回の準備	60
第4回	準備報告・討論(続き)	
	ゼミで判明した課題の調査・次回の準備	60
第5回	報告・討論(1)	
	ゼミで判明した課題の調査・次回の準備	60
第6回	報告・討論(2)	
	ゼミで判明した課題の調査・次回の準備	60
第7回	報告・討論(3)	
	ゼミで判明した課題の調査・次回の準備	60
第8回	報告・討論(4)	
	ゼミで判明した課題の調査・次回の準備	60
第9回	報告・討論(5)	
	ゼミで判明した課題の調査・次回の準備	60
第10回	報告・討論(6)	
	ゼミで判明した課題の調査・次回の準備	60

第11回	報告・討論 (7)	
	ゼミで判明した課題の調査・次回の準備	60
第12回	報告・討論 (8)	
	ゼミで判明した課題の調査・次回の準備	60
第13回	報告・討論 (9)	
	ゼミで判明した課題の調査・次回の準備	60
第14回	報告・討論 (10)	
	ゼミで判明した課題の調査・次回の準備	60
第15回	レポート作成の準備	
	レポート作成	300

授業の方法

学生による調査（の準備）、報告、討論、文書作成（の準備）を中心とする。なお、出願者があまりに大量とならない限りは、人数を絞り、単独報告を予定している。

成績評価の方法

平常点（60点）、最終レポート（40点）

平常点については、出席したうえで討論において意義のある発言をすることを最低限の評価要素とする。

レポートについては、既存の議論の状況を正確に把握したうえで自身の立場を明らかにしていることを最低限の評価要素とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

先修科目：行政法Ⅰ、行政法Ⅱ

テキスト

行政判例百選Ⅰ、Ⅱ（第6版）（有斐閣）。事前に購入する必要はない。

参考書

各年度の重要判例解説（有斐閣）、行政法判例集Ⅰ、Ⅱ（有斐閣）。事前に購入する必要はない。

質問・相談方法等（オフィス・アワー）

学内専用ホームページで周知する。

科目名	民法特殊研究 I		
教員名	高橋 朋子		
科目ナンバー	2060310013	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

テーマ：フランス家族法
 概要：フランス家族法を学びつつ、フランス語を勉強する。

到達目標

DP6(有用な研究課題の設定)を実現するため、次の2点を目標とする。
 1) 法律文献を読み解くことのできるフランス語学力が涵養できること。
 2) フランス家族法を理解し、わが国の家族法との差異について考えることができること。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス。以下の内容には変更の可能性あり。	
	特になし。	0分
第2回	日本語の論文+BOREL, Le nom de FAMILLE, p. 32	
	課題論文を読むこと。仏論文を翻訳して、発表の準備をすること。	学力に応じて。
第3回	同書p. 33-34	
	課題論文を読むこと。仏論文を翻訳して、発表の準備をすること。	学力に応じて。
第4回	同書 p. 34-35	
	課題論文を読むこと。仏論文を翻訳して、発表の準備をすること。	学力に応じて。
第5回	同書 p. 35-36	
	課題論文を読むこと。仏論文を翻訳して、発表の準備をすること。	学力に応じて。
第6回	同書 p. 36-37	
	課題論文を読むこと。仏論文を翻訳して、発表の準備をすること。	学力に応じて。
第7回	同書 p. 37-38	
	課題論文を読むこと。仏論文を翻訳して、発表の準備をすること。	学力に応じて。
第8回	同書 p. 38-39	
	課題論文を読むこと。仏論文を翻訳して、発表の準備をすること。	学力に応じて。
第9回	同書 p. 39-40	
	課題論文を読むこと。仏論文を翻訳して、発表の準備をすること。	学力に応じて。
第10回	同書 p. 40-41	
	課題論文を読むこと。仏論文を翻訳して、発表の準備をすること。	学力に応じて。

第11回	同書 p. 41-42	
	課題論文を読むこと。仏論文を翻訳して、発表の準備をすること。	学力に応じて。
第12回	同書 p. 42-43	
	課題論文を読むこと。仏論文を翻訳して、発表の準備をすること。	学力に応じて。
第13回	同書 p. 143-44	
	課題論文を読むこと。仏論文を翻訳して、発表の準備をすること。	学力に応じて。
第14回	同書 p. 44-45	
	課題論文を読むこと。仏論文を翻訳して、発表の準備をすること。	学力に応じて。
第15回	同書 p. 45-46	
	課題論文を読むこと。仏論文を翻訳して、発表の準備をすること。	学力に応じて。
授業の方法		
分担を決めて家族法関連の論文とフランス語の文献を読んでいく。		
成績評価の方法		
発表の内容によって判断する。授業態度や、出席が悪い場合は、マイナス評価となる。		
成績評価の基準		
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
フランス語やフランス法に関心のある者を対象とする。 フランス語がある程度読めること。		
テキスト		
以下のテキストを読む予定であるが、変更の可能性もある。初回にテキストを提示する。 Jean-Philippe BOREL, Le nom de FAMILLE, territorial 2013		
参考書		
木村健助『フランス法の氏名』1977年 Jacques MASSIP, Le nom de FAMILLE, DEFRENOIS 2005 Ghislaine JEANNOT-PAGES, Au Nom du p?re, Pulim 2008		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで周知する。		

科目名	民法基本研究 I		
教員名	瀧 史彦		
科目ナンバー	2060310014	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

【※このシラバスは仮のものである。実際の授業のテーマおよび授業方法は、履修者と相談したうえ、各人のニーズを十分に考慮して柔軟に決定する。】

テーマ：「信託法入門—信託は日本社会をどう変えるか」

信託とは、（ごくごくおおざっぱに言えば）財産を他人に「与える」と「預ける」ことの間のような独特の性質をもつ財産移転の方法であり、中世イギリスで発達した。現在、英米やオーストラリアでは、信託は基本的な法制度の一つとして、遺産の管理運用や、病院・大学などの公益財団の運営に広く利用されているし、ヨーロッパ大陸諸国でも近年、信託法理の導入が急速に進んでいる。実は、日本法にも信託という制度自体は明治時代から存在しているのだが、さまざまな事情のため、日本において信託は限られた分野でしか利用されてこなかった。しかし、信託の法律関係について基本的なルールを定める「信託法」が2006年に（実に84年ぶりに）全面改正されたことをきっかけとして、ここ数年、ようやく日本でも信託の利用が本格的に拡大しつつある。

前期の授業では初学者向けに書かれたテキストを使い、信託について基本的な考え方やルールを学ぶ。後期は、信託が日本の社会の中で実際にどのように使われているか、これからの日本社会ではどのような形での信託の活用が考えられるか、といった実務的観点も視野に入れ、具体的なテーマについて研究報告をおこなってもらう。

到達目標

DP2（課題の発見と解決）・DP5（表現力、発信力）・DP6（有用な研究課題の設定）・DP7（研究能力及び基礎的発信力）を実現するため、次の5点を到達目標とする。

1. 法学の分野における文献調査や判例検索の方法に習熟し、「わからないことを調べるには、どのような手順で、どのような資料にあたればよいか」を知っている。
2. 研究報告の準備や学期末レポートの執筆を通じて、論理的で明晰な文章を書く力を身につけている。
3. 信託の法律関係について、もし将来、信託を本格的に扱う仕事に就いたとしても道に迷わずにすむ程度の基本的知識を、体系的に身につけている。
4. 信託のしくみを活用した財産管理・資産承継の方法や税制上の優遇措置について、現行制度の概略を理解している。
5. 自身や親族の実生活の中で生じた財産上の問題について、信託に関する知識を応用して解決策を提案することができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	授業の進めかたの説明	
	初回授業に向けての特別な予習は必要ないが、シラバスの内容をよく読んで、授業の進めかたの概要を理解しておくこと。	30分
第2回	信託制度の基本的な構造・その1	
	具体的な予習内容は、前回の授業時に指示する。	180分
第3回	信託制度の基本的な構造・その2	
	具体的な予習内容は、前回の授業時に指示する。	180分
第4回	信託とは何か（テキスト第I章）	
	テキスト第I章を予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。	180分
第5回	人はなぜ信託をするのか（テキスト第II章）	
	テキスト第II章を予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。	180分
第6回	民事信託とは何か（テキスト第III章）	
	テキスト第III章を予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。	180分
第7回	商事信託とは何か（テキスト第IV章）	
	テキスト第IV章を予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。	180分
第8回	信託の変更・終了と受託者（テキスト第V章）	
	テキスト第V章を予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。	180分

第9回	受託者の忠実義務（テキスト第VI章）	
	テキスト第VI章を予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。	180分
第10回	受託者の注意義務（テキスト第VII章）	
	テキスト第VII章を予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。	180分
第11回	受託者のその他の義務（テキスト第VIII章）	
	テキスト第VIII章を予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。	180分
第12回	その他の重要な論点（テキスト第IX章）	
	テキスト第IX章を予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。	180分
第13回	信託の将来（テキスト第X章）	
	テキスト第X章を予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。	180分
第14回	信託法の重要判例・その1	
	具体的な予習内容は、前回の授業時に指示する。	180分
第15回	信託法の重要判例・その2	
	具体的な予習内容は、前回の授業時に指示する。	180分
第16回	法律文献・判例の調べかたと引用のしかた	
	前期の学習内容をよく復習しておくこと。	180分
第17回	論文・レポートの書きかた	
	具体的な予習内容は、前回の授業時に指示する。	180分
第18回	グループ研究の成果報告（1）	
	具体的な予習内容は、前回の授業時に指示する。	180分
第19回	グループ研究の成果報告（2）	
	具体的な予習内容は、前回の授業時に指示する。	180分
第20回	グループ研究の成果報告（3）	
	具体的な予習内容は、前回の授業時に指示する。	180分
第21回	グループ研究の成果報告（4）	
	具体的な予習内容は、前回の授業時に指示する。	180分
第22回	グループ研究の成果報告（5）	
	具体的な予習内容は、前回の授業時に指示する。	180分
第23回	個人報告（1）（2）	
	具体的な予習内容は、前回の授業時に指示する。	180分
第24回	個人報告（3）（4）	
	具体的な予習内容は、前回の授業時に指示する。	180分

第25回	個人報告 (5) (6)	
	具体的な予習内容は、前回の授業時に指示する。	180分
第26回	個人報告 (7) (8)	
	具体的な予習内容は、前回の授業時に指示する。	180分
第27回	個人報告 (9) (10)	
	具体的な予習内容は、前回の授業時に指示する。	180分
第28回	予備日 (1)	
	具体的な予習内容は、前回の授業時に指示する。	180分
第29回	予備日 (2)	
	具体的な予習内容は、前回の授業時に指示する。	180分
第30回	予備日 (3)	
	具体的な予習内容は、前回の授業時に指示する。	180分
授業の方法		
<p>研究報告と、それをうけての討論が中心となる。また、学期末にはレポート提出を課す予定である。 詳細は開講時に示す。</p>		
成績評価の方法		
<p>学習内容の理解度 (30%) ・ 課題に対する積極的な取組み (30%) ・ 授業への貢献度 (40%) を総合して平常点で評価する (無断欠席があれば当然ながら評価は大幅に下がる)。</p>		
成績評価の基準		
<p>成蹊大学大学院の成績評価基準 (学則第11条の2) に準拠する。</p>		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
<p>学部開講の関連科目：民法IA・IB, 民法II, 民法III, 民法IV, 刑法II, 商法I, 外国法I</p>		
テキスト		
<p>樋口範雄『入門 信託と信託法』第2版 (弘文堂, 2014年) 978-4-335-35597-4</p>		
参考書		
<p>道垣内弘人『信託法』 (有斐閣, 2017年) 978-4-641-13765-3 新井誠『信託法』第4版 (有斐閣, 2014年) 978-4-641-13666-3 道垣内弘人『信託法入門』 (日経文庫, 2007年) 978-4-532-11117-5 井上聡『信託の仕組み』 (日経文庫, 2007年) 978-4-532-11115-1 寺本昌広『逐条解説 新しい信託法』補訂版 (商事法務, 2008年) 978-4-7857-1561-8 道垣内弘人 (編著) 『条解信託法』 (弘文堂, 2017年) 978-4-335-35707-7 四宮和夫『信託法』新版 (有斐閣, 1989年) 978-4-641-00769-7 能見善久『現代信託法』 (有斐閣, 2004年) 978-4-641-13371-6 樋口範雄『アメリカ信託法ノートI』 (弘文堂, 2000年) 978-4-335-35212-6 樋口範雄『アメリカ信託法ノートII』 (弘文堂, 2003年) 978-4-335-35269-0 新井誠 (編) 『キーワードで読む信託法』 (有斐閣, 2007年) 978-4-641-13505-5 新井誠 (編集代表) 『信託法実務判例研究』 (有斐閣, 2015年) 978-4-641-13690-8 能見善久・道垣内弘人 (編) 『信託法セミナー1 信託の設定・信託財産』 (有斐閣, 2013年) 978-4-641-13631-1 能見善久・道垣内弘人 (編) 『信託法セミナー2 受託者』 (有斐閣, 2014年) 978-4-641-13663-2 能見善久・道垣内弘人 (編) 『信託法セミナー3 受益者等・委託者』 (有斐閣, 2015年) 978-4-641-13700-4 能見善久・道垣内弘人 (編) 『信託法セミナー4 信託の変更・終了・特例等』 (有斐閣, 2016年) 978-4-641-13751-6</p>		
<p>※上記以外の参考書については、開講時に紹介する。</p>		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
<p>ポータルサイトで周知する。</p>		

科目名	商法特殊研究 I		
教員名	湯原 心一		
科目ナンバー	2060310020	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

テーマ：証券法の基本論文

概要：英文の証券法（資本市場法）の論文を購読することで、証券法（資本市場法）研究における考え方を身につける。受講者の英語力に応じて、以下のリストから購読する論文を選択する。

到達目標

証券法学において経済分析が重要であることを理解し、その上で、基本的な経済分析の考え方を身につける。

DP6に関して、証券法の理論的知識に基づいて、現状の法を規範的に分析する専門性の基礎を身につける。米国証券法制に関する基礎的な知識を身につける。

演習に際して、担当教員の企業法務及び法律事務所における実務経験を活かし、現実にはどのような紛争が生じうるのか、また、その紛争を予防するためにどのような実務的な措置が採られているのかに配慮するものとする。また、法律実務を担うための実践的基礎となる知識・経験を積むことを目指す。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス＋購読論文の概説	
	次回論文の予習	300
第2回	・Zohar Goshen & Gideon Parchomovsky, The Essential Role of Securities Regulation, 55 Duke L.J. 711-782 (2006) ;	
	次回論文の予習＋証券法制の役割について理解すること。	300
第3回	・Eugene F. Fama, Efficient Capital Markets: A Review of Theory and Empirical Work, 25 J. Fin. 383-417 (1970) ・Ronald J. Gilson & Reinier H. Kraakman, The Mechanisms of Market Efficiency, 70 Va. L. Rev. 549-644 (1984)	
	次回論文の予習＋効率的市場仮説及びその限界について理解すること。	300
第4回	・Lynn A. Stout, The Mechanisms of Market Inefficiency: An Introduction to the New Finance, 28 J. Corp. L. 635-69 (2003) ・Jeffrey N. Gordon & Lewis A. Kornhauser, Efficient Markets, Costly Information, and Securities Research, 60 N.Y.U. L. Rev. 761-849 (1985)	
	次回論文の予習＋効率的市場仮説及びその限界について理解すること。	300
第5回	・Lynn A. Stout, Are Stock Markets Costly Casinos? Disagreement, Mark Failure, and Securities Regulation, 81 Va. L. Rev. 611 (1995) ・Marcel Kahan, Securities Laws and the Social Costs of Inaccurate Stock Prices, 41 Duke L.J. 977 (1992)	
	次回論文の予習＋効率的市場仮説及び証券市場の役割について理解すること。	300

第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・Hillary A. Sale, The New “Public” Corporation, 74 Law & Contemp. Probs. 137-48 (2011) ・Donald C. Langevoort & Robert B. Thompson, “Publicness” in Contemporary Securities Regulation After the JOBS Act, 101 Geo. L.J. 337-86 (2013) 	
	次回論文の予習+公開会社の概念について理解すること。	300
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・Dennis W. Carlton & Daniel R. Fischel, The Regulation of Insider Trading, 35 Stan. L. Rev. 857 (1983) ・Jonathan R. Macey, Insider Trading Economics, Politics, and Policy (1991) 	
	次回論文の予習+インサイダー取引の経済的な側面について理解すること。	300
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・Donna M. Nagy, Insider Trading and the Gradual Demise of Fiduciary Principles, 94 Iowa L. Rev. 1315-79 (2009) ・Jesse M. Fried, Insider Trading via the Corporation, 162 U. Pa. L. Rev. 801-39 (2014) 	
	次回論文の予習+インサイダー取引の経済的な側面について理解すること。	300
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・Ian Ayres & Stephen J. Choi, Internalizing Outsider Trading, 101 Mich. L. Rev. 313-408 (2002) ・Ian Ayres & Joe Bankman, Substitutes for Insider Trading, 54 Stan. L. Rev. 235-254 (2001) 	
	次回論文の予習+インサイダー取引の法理の変遷について理解すること。	300
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・Frank H. Easterbrook & Daniel R. Fischel, Mandatory Disclosure and the Protection of Investors, 70 Va. L. Rev. 669-715 (1984) ・Troy A. Paredes, Blinded by the Light: Information Overload and its Consequences for Securities Regulation, 81 Wash. U. L.Q. 417- 485 (2003) 	
	次回論文の予習+情報開示の問題点を理解すること。	300
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・Janet Cooper Alexander, Do the Merits Matter? A Study of Settlements in Securities Class Actions, 43 Stan. L. Rev. 497-598 (1991) ・Tom Baker & Sean J. Griffith, How the Merits Matter: Directors’ and Officers’ Insurance and Securities Settlements, 157 U. Pa. L. Rev. 755-832 (2009) 	
	次回論文の予習+証券訴訟及びその問題点について理解すること。	300
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・Elliott J. Weiss & John S. Beckerman, Let the Money Do the Monitoring: How Institutional Investors Can Reduce Agency Costs in Securities Class Actions, 104 Yale L.J. 2053-2127 (1995) ・John C. Coffee, Jr., Reforming the Securities Class Action: An Essay on Deterrence and Its Implementation, 106 Colum. L. Rev. 1534-86 (2006) 	
	次回論文の予習+証券訴訟及び実証研究の手法について理解すること。	300
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・Christine Jolls, Cass R. Sunstein & Richard Thaler, A Behavioral Approach to Law and Economics, 50 Stan. L. Rev. 1471-1550 (1998) ・Donald C. Langevoort, Organized Illusions: A Behavioral Theory of Why Corporations Mislead Stock Market Investors (and Cause Other Social Harms), 146 U. Pa. L. Rev. 101-172 (1997) 	
	次回論文の予習+行動経済学及び法制度への応用について理解すること。	300

第14回	<ul style="list-style-type: none"> • Brad M. Barber & Terrance Odean, The Behavior of Individual Investors, in 2B Handbook of the Economics of Finance 1533 (George M. Constantinides, Milton Harris & René M. Stulz eds., 2013) • Nicholas Barberis & Richard Thaler, A Survey of Behavioral Finance, in 1B Handbook of the Economics of Finance 1051, 1053 (George M. Constantinides et al. eds., 2003) 	
	次回論文の予習+投資家の行動及び実証研究の手法について理解すること。	300
第15回	<ul style="list-style-type: none"> • Stewart C. Myers & Nicholas S. Majluf, Corporate Financing and Investment Decisions When Firms Have Information That Investors Do Not Have, 13 J. Fin. Econ. 187-221 (1984) • Rafael La Porta, Florencio Lopez-de-Silanes & Andrei Shleifer, Law and Finance After a Decade of Research, in 2A Handbook of the Economics of Finance 425-491 (2013) 	
	これまでの復習+ファイナンスの考え方及び情報の非対称性について理解すること。	300
授業の方法		
授業の前に指定の論文を読み、内容を理解し、内容を理解するために必要な部分を調べてくること。		
成績評価の方法		
授業中の質疑から指定教科書の理解を図り、その理解の程度に応じて評価する（100%）。		
成績評価の基準		
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
会社法および金融商品取引法について知識を有していること、及び、英語での文献購読に支障がない程度の英語力を有していること。		
テキスト		
初回の授業で指示する。		
参考書		
初回の授業で指示する。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで周知する。		

科目名	商法基本研究 I		
教員名	北川 徹		
科目ナンバー	2060310021	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要			
【テーマ】 アメリカ会社法			
【概要】 米国の会社法制度を概観し、法の役割や機能を比較法的に検討する。とくに、経済学的観点から法制度を分析する。			
○本研究の前半（第1回～第15回）：指定の文献を講読し、ディスカッションを行う。			
○本研究の後半（第16回～第30回）：個別に研究テーマを選択した上で、ディスカッションを行う。具体的な研究内容やテーマの絞り込み等については、履修者と相談のうえで決定したい。			

到達目標			
・Diploma Policy(課題の発見と解決 (DP2)、有用な研究課題の設定 (DP6)、研究能力及び基礎的発信力 (DP7))を実現するため、次の2点を到達目標とする。			
・アメリカ会社法制度の全体像を法的および経済学的視点から理解することができる。			
・日本の会社法制度を比較法的に分析することができる。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	○ガイダンス ・イントロダクション ー研究テーマの設定方法・文献一覧について		
	会社法制度について関心のある具体的なテーマ(日本、アメリカのどちらでもよい)を事前に複数用意しておく。	60	
第2回	・文献講読と討論【テーマ1：第1回】		
	該当する文献の必要な範囲を読み、その要旨を整理してくる。	120	
第3回	・文献講読と討論【テーマ1：第2回】		
	該当する文献の必要な範囲を読み、その要旨を整理してくる。	120	
第4回	・文献講読と討論【テーマ1：第3回】		
	該当する文献の必要な範囲を読み、その要旨を整理してくる。	120	
第5回	●テーマ1の総括と問題点の整理 Agency Problems and Legal Strategies (Ch.2) The Basic Governance Structure (Ch.3)		
	●テーマ1に関して、これまで読んだ文献や関連裁判例をまとめたうえで、今後の議論の方向性(仮説)を検討してくる。	120	
第6回	・文献講読と討論【テーマ2：第1回】		
	該当する文献の必要な範囲を読み、その要旨を整理してくる。	120	
第7回	・文献講読と討論【テーマ2：第2回】		
	該当する文献の必要な範囲を読み、その要旨を整理してくる。	120	
第8回	・文献講読と討論【テーマ2：第3回】		
	該当する文献の必要な範囲を読み、その要旨を整理してくる。	120	
第9回	●テーマ2の総括と問題点の整理 Creditor Protection (Ch.4) Related Party Transactions (Ch.5) Significant Corporate Actions (Ch.6)		
	●テーマ2に関して、これまで読んだ文献や関連裁判例をまとめたうえで、今後の議論の方向性(仮説)を検討してくる。	120	

第10回	・文献講読と討論【テーマ3：第1回】	
	該当する文献の必要な範囲を読み、その要旨を整理してくる。	120
第11回	・文献講読と討論【テーマ3：第2回】	
	該当する文献の必要な範囲を読み、その要旨を整理してくる。	120
第12回	・文献講読と討論【テーマ3：第3回】	
	該当する文献の必要な範囲を読み、その要旨を整理してくる。	120
第13回	●テーマ3の総括と問題点の整理 Control Transactions (Ch.7) Issuers and Investor Protection (Ch.8)	
	●テーマ3に関して、これまで読んだ文献や関連裁判例をまとめたうえで、今後の議論の方向性（仮説）を検討してくる。	120
第14回	●上記のテーマ1、2、3の総括（1） What is Corporate Law? (Ch.1)	
	●これまでの複数のテーマを総括し、より大局的な見地からどのような議論ができるか、検討する。	180
第15回	●上記のテーマ1、2、3の総括（2） Beyond the Anatomy? (Ch.9)	
	●これまでの複数のテーマを総括し、より大局的な見地からどのような議論ができるか、検討する。	180
第16回	・研究テーマに関するディスカッション【第1回】	
	個別の研究テーマに関する論点を整理し議論する。	90
第17回	・研究テーマに関するディスカッション【第2回】	
	個別の研究テーマに関する論点を整理し議論する。	90
第18回	・研究テーマに関するディスカッション【第3回】	
	個別の研究テーマに関する論点を整理し議論する。	90
第19回	・研究テーマに関するディスカッション【第4回】	
	個別の研究テーマに関する論点を整理し議論する。	90
第20回	・研究テーマに関するディスカッション【第5回】	
	個別の研究テーマに関する論点を整理し議論する。	90
第21回	・研究テーマに関するディスカッション【第6回】	
	個別の研究テーマに関する論点を整理し議論する。	90
第22回	●研究テーマに関するディスカッション【第1回～第6回】の小括	
	個別の研究テーマに関する論点を整理し議論する。	120
第23回	・研究テーマに関するディスカッション【第7回】	
	個別の研究テーマに関する論点を整理し議論する。	90

第24回	・研究テーマに関するディスカッション【第8回】	
	個別の研究テーマに関する論点を整理し議論する。	90
第25回	・研究テーマに関するディスカッション【第9回】	
	個別の研究テーマに関する論点を整理し議論する。	90
第26回	・研究テーマに関するディスカッション【第10回】	
	個別の研究テーマに関する論点を整理し議論する。	90
第27回	・研究テーマに関するディスカッション【第11回】	
	個別の研究テーマに関する論点を整理し議論する。	90
第28回	・研究テーマに関するディスカッション【第12回】	
	個別の研究テーマに関する論点を整理し議論する。	90
第29回	●研究テーマに関するディスカッション【第7回～第12回】の小括	
	個別の研究テーマに関する論点を整理し議論する。	90
第30回	●研究テーマに関するディスカッションのまとめ ●レビュー・セッション	
	これまでのディスカッションの成果をまとめる。	120

授業の方法

各回、担当されたテーマの文献を読んできたことを前提に、双方向による討論を行う。詳細については履修者の希望を最大限に考慮したい。

成績評価の方法

各回のテーマの報告内容（70%）と授業への積極的な参加・貢献度（30%）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

評価に際しては、以下の点を基準とする。

・アメリカの会社法制度の概要を理解し、経済学的な観点から法制度の役割や機能を説明することができるかどうか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

【先修科目】商法、会社法ほか民事系科目

【関連科目】法と経済学

テキスト

Reinier Kraakman, John Armour, Paul Davis, Luca Enriques, Henry Hansmann, Gerard Hertig, Klaus Hopt, Hideki Kanda, Mariana Pargendler, Wolf-George Ringe, and Edward Rock, *The Anatomy of Corporate Law : A Comparative and Functional Approach* (3rd ed., Oxford University Press, 2017)

ハウエル・ジャクソンほか『数理法務概論』（神田秀樹＝草野耕一訳，有斐閣，2014年）

参考書

William T. Allen, Reinier Kraakman, *Commentaries and Cases on the Law of Business Organization* (5th ed., 2016)

Roberta Romano, *Foundations of Corporate Law* (2nd ed., LexisNexis, 2010)

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	商法基本研究II		
教員名	湯原 心一		
科目ナンバー	2060310023	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

テーマ：会社法の基本論文

概要：英文の会社法の論文を購読することで、会社法研究における考え方を身につける。受講者の英語力に応じて、以下のリストから購読する論文を選択する。

到達目標

会社法学において経済分析が重要であることを理解し、その上で、基本的な経済分析の考え方を身につける。

DP6に関して、会社法の理論的知識に基づいて、現状の法を規範的に分析する専門性の基礎を身につける。米国会社法に関する基礎的な知識を身につける。

演習に際して、担当教員の企業法務及び法律事務所における実務経験を活かし、現実にはどのような紛争が生じうるのか、また、その紛争を予防するためにどのような実務的な措置が採られているのかに配慮するものとする。また、法律実務を担うための実践的基礎となる知識・経験を積むことを目指す。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	指定された文献を予習すること	300
第2回	・ Ronald H. Coase, The Nature of the Firm, 4 <i>Economica</i> 386-405 (1937) ・ Adolf A. Berle & Gardiner C. Means, <i>The Modern Corporation and Private Property</i> (Revised ed. 1968) (抜粋)	
	指定された文献を予習すること 企業の範囲がどのように画されているのかについて検討すること。 会社の支配権の所在について検討すること。	300
第3回	・ Ronald H. Coase, The Problem of Social Cost, 3 <i>J.L. & Econ</i> 1-44 (1960) ・ Francesco Parisi, Coase Theorem and Transaction Cost Economics in the Law, in <i>The Elgar Companion to Law and Economics</i> 7-39 (Jürgen G. Backhaus ed. 1999)	
	指定された文献を予習すること コースの定理の定義、含意及び限界について理解すること。	300
第4回	・ Michael C. Jensen & William H. Meckling, Theory of the Firm: Managerial Behavior, Agency Costs and Ownership Structure, 3 <i>J. Fin. Econ.</i> 305-60 (1976) ・ Eugene F. Fama & Michael C. Jensen, Separation of Ownership and Control, 26 <i>J.L. & Econ.</i> 301-325 (1983)	
	指定された文献を予習すること 企業の理論、エージェンシー費用及び所有と経営の分離について理解すること。	300
第5回	・ Stephen M. Bainbridge, Director Primacy: The Means and Ends of Corporate Governance, 97 <i>Nw. U. L. Rev.</i> 547-606 (2003) ・ Lucian Arye Bebchuk, The Case for Increasing Shareholder Power, 118 <i>Harv. L. Rev.</i> 833 (2005)	
	指定された文献を予習すること 会社支配に関する考え方について理解すること。	300
第6回	・ Michael C. Jensen, Agency Costs of Free Cash Flow, Corporate Finance, and Takeovers, 76 <i>Am. Econ. Rev.</i> 323-329 (1986) ・ Eugene F. Fama & Michael C. Jensen, Agency Problems and Residual Claims, <i>Journal of Law and Economics</i> , Vol. 26, No. 2 (Jun., 1983), pp. 327-349	
	指定された文献を予習すること エージェンシー費用について理解すること。	300

第7回	<ul style="list-style-type: none"> Tom Baker & Sean J. Griffith, The Missing Monitor in Corporate Governance: The Directors' & Officers' Liability Insurer, 95 Geo. L.J. 1795-1842 (2007) Michal Barzuza, Market Segmentation: The Rise of Nevada as a Liability-free Jurisdiction, 98 Va. L. Rev. 935-1000 (2012) 	
	指定された文献を予習すること エージェンシー費用について理解すること。	300
第8回	<ul style="list-style-type: none"> William W. Bratton & Michael L. Wachter, The Case Against Shareholder Empowerment, 158 U. Pa. L. Rev. 653-728 (2010) Zohar Goshen & Richard Squire, Principal Costs: A New Theory for Corporate Law and Governance, 117 Colum. L. Rev. 767 (2017) 	
	指定された文献を予習すること エージェンシー費用について理解すること。	300
第9回	<ul style="list-style-type: none"> Frank H. Easterbrook & Daniel R. Fischel, Voting in Corporate Law, 26 J.L. & Econ. 395-427 (1983) Paul H. Edelman, Randall S. Thomas & Robert B. Thompson, Shareholder Voting in an Age of Intermediary Capitalism, 87 S. Cal. L. Rev. 1359 (2014) 	
	指定された文献を予習すること 投票行動における経済的な考え方を理解すること。	300
第10回	<ul style="list-style-type: none"> Henry T.C. Hu & Bernard Black, The New Vote Buying: Empty Voting and Hidden (Morphable) Ownership, 79 S. Cal. L. Rev. 811-908 (2006) Henry T.C. Hu & Bernard Black, Equity and Debt Decoupling and Empty Voting II: Importance and Extensions, 156 U. Pa. L. Rev. 625-739 (2008) 	
	指定された文献を予習すること 議決権の経済的な考え方を理解すること。	300
第11回	<ul style="list-style-type: none"> Henry Hansmann & Reinier Kraakman, The Essential Role of Organizational Law, 110 Yale L.J. 387 (2000) Henry Hansmann & Reinier Kraakman, Toward Unlimited Shareholder Liability for Corporate Torts, 100 Yale L.J. 1879-1934 (1991) 	
	指定された文献を予習すること 組織法の経済的な考え方を理解し、株主有限責任とその問題点について理解すること。	300
第12回	<ul style="list-style-type: none"> Henry Hansmann, Reinier Kraakman & Richard Squire, Law and the Rise of the Firm, 119 Harv. L. Rev. 1333-1403 (2006) 	
	指定された文献を予習すること 組織法の歴史的経緯及び今後の課題について理解すること。	300
第13回	<ul style="list-style-type: none"> Henry G. Manne, Mergers and the Market for Corporate Control, 73 J. Pol. Econ. 110-120 (1965) Frank H. Easterbrook & Daniel R. Fischel, The Proper Role of a Target's Management in Responding to a Tender Offer, 94 Harv. L. Rev. 1161-1204 (1981) 	
	指定された文献を予習すること 会社支配権市場について理解すること。	300
第14回	<ul style="list-style-type: none"> Lucian Bebchuk, The Case Against Board Veto in Corporate Takeovers, 69 U. Chi. L. Rev. 973 (2002) Ronald J. Gilson, Seeking Competitive Bids Versus Pure Passivity in Tender Offer Defense, 35 Stan. L. Rev. 51-67 (1982) 	
	指定された文献を予習すること 会社支配権の買収及び防衛について理解すること。	300
第15回	<ul style="list-style-type: none"> Ian Ayres, Analyzing Stock Lock-Ups: Do Target Treasury Sales Foreclose Or Facilitate Takeover Auctions, 90 Colum. L. Rev. 682-718 (1990) Marcel Kahan & Michael Klausner, Lockups and the Market for Corporate Control, 48 Stan. L. Rev. 1539 (1996) 	
	指定された文献を予習すること 会社支配権の買収及び取引保護について理解すること。	300

第16回	<ul style="list-style-type: none"> ・ Guhan Subramanian, Go-Shops vs. No-Shops in Private Equity Deals: Evidence and Implications, 63 Bus. Law. 729-60 (2008) ・ Guhan Subramanian, Post-Siliconix Freeze-outs: Theory and Evidence, 36 J. Legal Stud. 1-26 (2007) 	
	指定された文献を予習すること 会社支配権市場及び実証研究の手法について理解すること。	300
第17回	<ul style="list-style-type: none"> ・ Andrei Shleifer & Lawrence H. Summers, Breach of Trust in Hostile Takeovers, in Corporate Takeovers: Causes and Consequences 33-67 (Alan J. Auerbach, ed., 1988) ・ HB Korenvaes Investments, L.P. v. Marriott Corp., 1993 Del. Ch. Lexis 105 (1993) 	
	指定された文献を予習すること 会社支配権市場について理解すること。	300
第18回	<ul style="list-style-type: none"> ・ David J. Denis, Organizational Form and the Consequences of Highly Leveraged Transactions: Kroger's recapitalization and Safeway's LBO, 36 J. Fin. Econ. 193-224 (1994) ・ Thomas Lys & Linda Vincent, An Analysis of Value Destruction in AT&T's Acquisition of NCR, 39 J. Fin. Econ. 353-378 (1995) 	
	指定された文献を予習すること 会社支配権市場について理解すること。	300
第19回	<ul style="list-style-type: none"> ・ Marcel Kahan, Sales of Corporate Control, 9 J.L. Econ. & Org. 368-379 (1993) 	
	指定された文献を予習すること 会社支配権市場及び規範的分析について理解すること。	300
第20回	<ul style="list-style-type: none"> ・ Lucian A. Bebchuk, John C. Coates, IV & Guhan Subramanian, The Powerful Antitakeover Force of Staggered Boards: Theory, Evidence, and Policy, 54 Stanford Law Review 887-951 (2002) 	
	指定された文献を予習すること 会社支配権市場及び実証研究の手法について理解すること。	300
第21回	<ul style="list-style-type: none"> ・ Lucian Arye Bebchuk, The Case Against Board Veto in Corporate Takeovers, 69 U. Chi. L. Rev. 973 (2002) 	
	指定された文献を予習すること 会社支配権市場について理解すること。	300
第22回	<ul style="list-style-type: none"> ・ Ralph K. Winter, Jr., State Law, Shareholder Protection, and the Theory of the Corporation, 6 J. Legal Stud. 251-292 (1977) ・ Roberta Romano, Law as a Product: Some Pieces of the Incorporation Puzzle, 1 J.L. Econ. & Org. 225-283 (1985) 	
	指定された文献を予習すること 州間競争について理解すること。	300
第23回	<ul style="list-style-type: none"> ・ Robert Daines & Michael Klausner, Do IPO Charters Maximize Firm Value? Antitakeover Protection in IPOs, 17 J.L. Econ. & Org. 83-120 (2001) 	
	指定された文献を予習すること 州間競争及び実証研究の手法について理解すること。	300
第24回	<ul style="list-style-type: none"> ・ Ehud Kamar, A Regulatory Competition Theory of Indeterminacy in Corporate Law, 98 Colum. L. Rev. 1908-59 (1998) ・ Marcel Kahan & Ehud Kamar, Myth of State Competition in Corporate Law, 55 Stan. L. Rev. 679 (2002) 	
	指定された文献を予習すること 州間競争及び不完全競争について理解すること。	300
第25回	<ul style="list-style-type: none"> ・ Roberta Romano, The Market for Corporate Law Redux, in The Oxford Handbook of Law and Economics: Volume 2: Private and Commercial Law (Francesco Parisi ed., 2017) ・ Marcel Kahan, The State of State Competition for Incorporations (2014) 	
	指定された文献を予習すること 州間競争について理解すること。	300

第26回	<ul style="list-style-type: none"> Mark J. Roe, Delaware's Competition, 117 Harv. L. Rev. 588-646 (2003) Lucian Arye Bebchuk & Assaf Hamdani, Vigorous Race or Leisurely Walk: Reconsidering the Competition over Corporate Charters, 112 Yale L.J. 553-616 (2002) 	
	指定された文献を予習すること 州間競争について理解すること。	300
第27回	<ul style="list-style-type: none"> Lucian Arye Bebchuk & Mark J. Roe, A Theory of Path Dependence in Corporate Ownership and Governance, 52 Stan. L. Rev. 127-70 (1999) Marcel Kahan & Michael Klausner, Path Dependence in Corporate Contracting: Increasing Returns, Herd Behavior and Cognitive Biases, 74 Wash. U. L.Q. 347-66 (1996) 	
	指定された文献を予習すること 経路依存及び具体的法制度への応用について理解すること。	300
第28回	<ul style="list-style-type: none"> Robert Daines, Does Delaware Law Improve Firm Value?, 62 J. Fin. Econ. 525 (2001) Guhan Subramanian, The Disappearing Delaware Effect, 20 J.L. Econ. & Org. 32-59 (2004) 	
	指定された文献を予習すること 州間競争及び実証研究の手法について理解すること。	300
第29回	<ul style="list-style-type: none"> Jonathan R. Macey & Geoffrey P. Miller, Toward an Interest-Group Theory of Delaware Corporate Law, 65 Tex. L. Rev. 469 (1987) 	
	指定された文献を予習すること 企業の理論について理解すること。	300
第30回	<ul style="list-style-type: none"> Margaret M. Blair & Lynn A. Stout, A Team Production Theory of Corporate Law, 85 Va. L. Rev. 247 (1999) 	
	指定された文献を予習すること 企業の理論について理解すること。	300
授業の方法		
事前に論文を読んだ上で、内容について議論する。		
成績評価の方法		
授業中の質疑から指定教科書の理解を図り、その理解の程度に応じて評価する (100%)		
成績評価の基準		
成蹊大学大学院の成績評価基準 (学則第11条の2) に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
社法および金融商品取引法について知識を有していること、及び、英語での文献購読に支障がない程度の英語力を有していること。		
テキスト		
初回の授業で指示する。		
参考書		
初回の授業で指示する。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで周知する。		

科目名	刑事法基本研究III		
教員名	金 光旭		
科目ナンバー	2060310031	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要
 刑事法に関する重要判例について検討する。具体的なテーマについては、受講者の希望に応じて相談のうえ決めることとする。

到達目標
 DP6（有用な研究課題の設定）及びDP7（研究能力及び基礎的発信力）を実現するため、以下の2点を到達目標とする。
 ① 判決文を正確に理解することができる。
 ② レポートや報告により、当該テーマについての理解を深める。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第2回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第3回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第4回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第5回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第6回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第7回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第8回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第9回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第10回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第11回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第12回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第13回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分

第14回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第15回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第16回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第17回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第18回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第19回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第20回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第21回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第22回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第23回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第24回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第25回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第26回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第27回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第28回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第29回	判例研究	
	配布資料を読む。	90分
第30回	まとめ	
	これまでの検討内容を整理する。	90分

授業の方法

あらかじめ指定したテーマについて十分な予習をしていることを前提に、履修者全員がディスカッションを行う方式を進める。

成績評価の方法

ディスカッションにおける発言やレポートを重視して評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

刑法、刑事訴訟法。

テキスト

毎回資料を配布する。

参考書

追って指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	民事訴訟法特殊研究 I		
教員名	北島 典子		
科目ナンバー	2060310032	単位数	2
配当年次	開講時期	2019年度 前期	

テーマ・概要

本演習は、民事訴訟法の基本的な判例を読み、その内容を理解することを目標とする。
講義の中で判例に触れる場合には、時間の制約もあって、十分にその内容を説明することができない場合も多い。しかし、一つの判例を読み込むと、非常に多くのことを学ぶことができるものである。特に、民事訴訟法が対象とするのは、普段触れることの多くない世界であって、判決手続の流れを学ぶ際に、そのイメージがわからず、学修に戸惑いを覚える者も多い。判例を素材とすることで、民事訴訟法上の各制度が実際にどのように問題なるのかを知ることができ、より深い民事訴訟法の理解に繋がるものと思われる。

到達目標

- ①民事訴訟法の基本的な判例を読み、その内容を理解する。
- ②民事訴訟法に関する基本的な知識を身につける。
- ③民事訴訟法の構造を知り、その法律を理解することで、社会の問題を法的に分析し、その解決に向けて法を活用する能力を身につける(DP6)。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	ガイダンス 授業の進め方について 新聞等で興味のある倒産事件を確認してくる	60
第2回	民事訴訟法の概略 民事訴訟法の全体像をつかむ。	90
第3回	第3回以降は、毎回、判例研究を行う。 民事訴訟の対象 対象判例を読み、その内容を理解する。 疑問点を明確にする。	90
第4回	当事者の確定 対象判例を読み、その内容を理解する。 疑問点を明確にする。	90
第5回	当事者能力 対象判例を読み、その内容を理解する。 疑問点を明確にする。	90
第6回	当事者適格 対象判例を読み、その内容を理解する。 疑問点を明確にする。	90
第7回	給付の訴え 対象判例を読み、その内容を理解する。 疑問点を明確にする。	90
第8回	確認の利益 対象判例を読み、その内容を理解する。 疑問点を明確にする。	90

第9回	訴えと請求	
	対象判例を読み、その内容を理解する。 疑問点を明確にする。	90
第10回	当事者の主張	
	対象判例を読み、その内容を理解する。 疑問点を明確にする。	90
第11回	釈明権	
	対象判例を読み、その内容を理解する。 疑問点を明確にする。	90
第12回	訴訟における証明・事実認定	
	対象判例を読み、その内容を理解する。 疑問点を明確にする。	90
第13回	証拠調べ	
	対象判例を読み、その内容を理解する。 疑問点を明確にする。	90
第14回	既判力	
	対象判例を読み、その内容を理解する。 疑問点を明確にする。	90
第15回	まとめ	
	これまでの学修を振り返る。	60
授業の方法		
ゼミ形式で行う。 受講生の報告が前提となるので、受講にあたっては十分な準備が必要となる。		
成績評価の方法		
報告内容、議論への参加状況等による総合評価。		
成績評価の基準		
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
民事手続法Ⅰ（判決手続）を履修済みであることが望ましい。 そのほか、民法Ⅰ～Ⅳ、民事手続法Ⅱに関する知識もあとなおよい。		
テキスト		
『民事訴訟法判例百選〔第5版〕』（有斐閣、2015年）ISBN-13：978-4641115279		
参考書		
授業の中で適宜指示する。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで周知する。		

科目名	国際法基本研究 I		
教員名	佐藤 義明		
科目ナンバー	2060310039	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

国際投資協定および国際仲裁の制度と実務とに関する理解を深めます。

到達目標

国際投資協定の制度およびその現状に関する論点を把握するとともに、さまざまな国ごと分野ごとの実態を説明できるように学修し、DP6（有用な研究課題の設定）を実現することを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	投資協定および仲裁の意義を理解する。	
	『国際投資協定』第1章を熟読する。	90分
第2回	投資協定の保護の対象を理解する。	
	『国際投資協定』第2章を熟読する。	90分
第3回	仲裁における適用法規を理解する。	
	『国際投資協定』第3章を熟読する。	90分
第4回	最恵国待遇を理解する。	
	『国際投資協定』第4章を熟読する。	90分
第5回	内国民待遇を理解する。	
	『国際投資協定』第5章を熟読する。	90分
第6回	「公正・衡平待遇」を理解する。	
	『国際投資協定』第6章を熟読する。	90分
第7回	間接収容に関する仲裁法理を理解する。	
	『国際投資協定』第7章を熟読する。	90分
第8回	アンブレラ条項を理解する。	
	『国際投資協定』第8章を熟読する。	90分
第9回	例外規定を理解する。	
	『国際投資協定』第9章を熟読する。	90分
第10回	行為の帰属の問題を理解する。	
	『国際投資協定』第10章を熟読する。	90分

第11回	補償と賠償を理解する。	
	『国際投資協定』第11章を熟読する。	90分
第12回	仲裁の先決的問題を理解する。	
	『国際投資協定』第12章を熟読する。	90分
第13回	並行的手続に関する仲裁法理を理解する。	
	『国際投資協定』第13章を熟読する。	90分
第14回	仲裁における証拠法理を理解する。	
	『国際投資協定』第14章を熟読する。	90分
第15回	仲裁と裁判の機能分化を理解する。	
	『国際投資協定』第15章を熟読する。	90分
第16回	企業戦略における国際仲裁の意義を理解する。	
	『国際仲裁と企業戦略』第1章1を熟読する。	90分
第17回	日本法と国際仲裁とのかかわりを理解する。	
	『国際仲裁と企業戦略』第1章2を熟読する。	90分
第18回	国際仲裁の論点を概観する。	
	『国際仲裁と企業戦略』第1章3を熟読する。	90分
第19回	国際建設仲裁を概観する。	
	『国際仲裁と企業戦略』第3章1を熟読する。	90分
第20回	国際建設紛争と紛争処理委員会の機能を理解する。	
	『国際仲裁と企業戦略』第3章2を熟読する。	90分
第21回	投資協定仲裁の活用条件を理解する。	
	『国際仲裁と企業戦略』第4章1を熟読する。	90分
第22回	企業による投資仲裁利用の実務を理解する。	
	『国際仲裁と企業戦略』第4章2を熟読する。	90分
第23回	インドネシアにおける国際仲裁を理解する。	
	『国際仲裁と企業戦略』第5章1を熟読する。	90分
第24回	インドにおける国際仲裁を理解する。	
	『国際仲裁と企業戦略』第4章2を熟読する。	90分

第25回	国際仲裁と外国倒産手続を理解する。	
	『国際仲裁と企業戦略』第4章3を熟読する。	90分
第26回	国際仲裁のケーススタディ1：Sempra事件	
	『国際仲裁と企業戦略』第2章2を熟読する。	90分
第27回	国際仲裁のケーススタディ2：Jivraj事件	
	『国際仲裁と企業戦略』第2章3を熟読する。	90分
第28回	国際仲裁のケーススタディ3：Hall Street Associations事件	
	『国際仲裁と企業戦略』第2章13を熟読する。	90分
第29回	国際仲裁のケーススタディ4：TermoRio事件	
	『国際仲裁と企業戦略』第2章15を熟読する。	90分
第30回	仲裁の将来に向けて、最終レポートで取り上げようとする論点を中心に議論する。	
	『国際仲裁と企業戦略』第6章を熟読する。	90分
授業の方法		
テキストの該当箇所に関する要約および論点の抽出を踏まえて、テキストの正確な理解および論点に関する議論を双方向的に展開します。		
成績評価の方法		
平常点（40%）、中間レポート（30%）および最終レポート（30%）によって判定します。		
成績評価の基準		
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠します。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
先修科目として国際法Iおよび国際法IIがあります。		
テキスト		
小寺彰編『国際投資協定：仲裁による法的保護』（三省堂、2010年）。		
参考書		
『国際条約集2019年版』（有斐閣）。 小寺彰、中川淳司編『基本経済条約集』（有斐閣、第2版、2014年）。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで周知する。		

科目名	労働法基本研究 I		
教員名	原 昌登		
科目ナンバー	2060310043	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要
 労働法に関する最近の重要判例について検討します。また、受講者から要望があれば、文献の講読（テーマ研究）や事例問題の研究に変更することもあります。詳しくは、開講時に受講者と相談して決定します。

到達目標
 DP6（有用な研究課題の設定）、7（研究能力及び基礎的発信力）を実現するため、次の2点を到達目標とします。
 ①判決文あるいは文献を「正しく」理解することができる
 ②判例評釈や文献を読み込み、議論を通して「深く」考察することができる

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	受講者各自が関心のあるテーマについて教員と相談し、報告判例（あるいは文献等）を決定		
	関心のあるテーマについて、簡単にまとめておく		30
第2回	判例研究		
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく		40（報告担当の場合は240程度。以下同じ）
第3回	判例研究		
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく		40
第4回	判例研究		
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく		40
第5回	判例研究		
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく		40
第6回	判例研究		
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく		40
第7回	判例研究		
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく		40
第8回	判例研究		
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく		40
第9回	判例研究		
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく		40
第10回	判例研究		
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく		40

第11回	判例研究	
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく	40
第12回	判例研究	
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく	40
第13回	判例研究	
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく	40
第14回	判例研究	
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく	40
第15回	判例研究	
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく	40
第16回	判例研究	
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく	40
第17回	判例研究	
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく	40
第18回	判例研究	
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく	40
第19回	判例研究	
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく	40
第20回	判例研究	
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく	40
第21回	判例研究	
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく	40
第22回	判例研究	
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく	40
第23回	判例研究	
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく	40
第24回	判例研究	
	報告担当の場合は、事前にレジюмеを作成。それ以外の者は、レジюмеを熟読しておく	40

第25回	判例研究	
	報告担当の場合は、事前にレジュメを作成。それ以外の者は、レジュメを熟読しておく	40
第26回	判例研究	
	報告担当の場合は、事前にレジュメを作成。それ以外の者は、レジュメを熟読しておく	40
第27回	判例研究	
	報告担当の場合は、事前にレジュメを作成。それ以外の者は、レジュメを熟読しておく	40
第28回	判例研究	
	報告担当の場合は、事前にレジュメを作成。それ以外の者は、レジュメを熟読しておく	40
第29回	判例研究	
	報告担当の場合は、事前にレジュメを作成。それ以外の者は、レジュメを熟読しておく	40
第30回	まとめとして、授業で扱った判例を振り返り、労働法の今後のあるべき姿について、自由に議論する	
	これまでの判例研究の内容（レジュメ等）を振り返っておく	120
授業の方法		
<p>教員と受講者の対話を重視した双方向的な授業を行います。報告担当者は検討する判例（あるいは文献）の他に判例評釈や研究論文など必要な資料を読み、事前に報告レジュメを作成することが求められます。授業では担当者の報告の後、教員との質疑応答や受講者同士のディスカッションを通して理論的な考察を深めていきます。</p>		
成績評価の方法		
<p>平常点で評価します。報告内容50%、質疑応答の内容及び授業への参加状況50%の割合で評価します。</p>		
成績評価の基準		
<p>成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠します。 次の点に着目し、その達成度により評価を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該判例を検討するうえで必要な基礎知識を正確に身に付けているか ・当該判例に関する文献を収集し、検討できているか ・当該判例の位置付け及び評価を行うことができているか 		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
<p>労働法の基本的な考え方を一通りマスターしていることを前提に授業を行います。労働法を学んだことがない場合には、下記テキストを用いて授業と並行して独習することが必要となります。また、関連科目としては民法が挙げられます。</p>		
テキスト		
<p>『労働法（第7版）』水町勇一郎（有斐閣，2018） 『コンパクト労働法』原 昌登（新世社，2014）</p>		
参考書		
<p>『労働法（第11版補正版）』菅野和夫（弘文堂，2017）※2019に改訂予定あり</p>		
質問・相談方法等（オフィス・アワー）		
<p>質問・相談は、授業の前後およびポータルサイトで周知するオフィス・アワーで受け付けます。</p>		

科目名	英米法特殊研究		
教員名	安部 圭介		
科目ナンバー	2060310055	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要
テーマ：環境保護と企業の社会的責任
 企業には当然のことながら、法に従う義務がある。しかし、単に法令を遵守するだけでなく、環境保護のために自主的に資源を投じる社会的責任をも企業は負っているのだろうか。
 環境保護への取組みが社会の利益のために利潤を犠牲にする行為だとすると、そもそも、株主に対する責任との関係上、企業はそのような活動をしてよいのだろうか。仮にしてよいとして、そのような活動をする企業は競争的な市場で生き残ってゆけるのだろうか。さらに国や社会全体の観点から見たとき、企業が環境保護のために自発的な取組みをすることは、社会的・経済的資源の効率的な使い方であると言えるのだろうか。そして現在、企業はどの程度、このような活動を行っているのだろうか。
 さまざまな専門分野の研究成果を集めた論文集を素材として、全員で議論してゆきたい。

到達目標
 企業の社会的責任に関する知識を身につけるとともに、「緑の消費者」、取締役の信認義務などをはじめとするさまざまな根源的なテーマに関する議論の背景と現状を把握し、課題を理解することを目標とする。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	1. はじめに：環境保護と企業の社会的責任を考える テキスト全体にざっと目を通し、企業の社会的責任について気づいた点をノートに書き出しておく。	60
第2回	2. 企業の社会的責任をめぐる4つの問題 テキストの指定された箇所を読み、授業で議論したい問題をノートに書き出しておく。	60
第3回	3. 公共の利益のために利潤を犠牲にする企業経営者の裁量をめぐって：法学の観点から(1) テキストの指定された箇所を読み、授業で議論したい問題をノートに書き出しておく。	60
第4回	4. 公共の利益のために利潤を犠牲にする企業経営者の裁量をめぐって：法学の観点から(2) テキストの指定された箇所を読み、授業で議論したい問題をノートに書き出しておく。	60
第5回	5. 公共の利益のために利潤を犠牲にする企業経営者の裁量をめぐって：法学の観点から(3) テキストの指定された箇所を読み、授業で議論したい問題をノートに書き出しておく。	60
第6回	6. 公共の利益のために利潤を犠牲にする企業経営者の裁量をめぐって：法学の観点から(4) テキストの指定された箇所を読み、授業で議論したい問題をノートに書き出しておく。	60
第7回	7. 企業経営者の裁量の拡大は社会の利益の増大につながるか テキストの指定された箇所を読み、授業で議論したい問題をノートに書き出しておく。	60
第8回	8. グローバリゼーションの展開と企業経営者の裁量の限界 テキストの指定された箇所を読み、授業で議論したい問題をノートに書き出しておく。	60
第9回	9. 企業の社会的責任：経済学および公共政策の観点から(1) テキストの指定された箇所を読み、授業で議論したい問題をノートに書き出しておく。	60
第10回	10. 企業の社会的責任：経済学および公共政策の観点から(2)	

	テキストの指定された箇所を読み、授業で議論したい問題をノートに書き出しておく。	60
第11回	11. 企業の社会的責任のイメージ再考	
	テキストの指定された箇所を読み、授業で議論したい問題をノートに書き出しておく。	60
第12回	12. 環境保護と企業の社会的責任：経営学の観点から（1）	
	テキストの指定された箇所を読み、授業で議論したい問題をノートに書き出しておく。	60
第13回	13. 環境保護と企業の社会的責任：経営学の観点から（2）	
	テキストの指定された箇所を読み、授業で議論したい問題をノートに書き出しておく。	60
第14回	14. 倫理・リスク・環境：企業の責任を考える	
	テキストの指定された箇所を読み、授業で議論したい問題をノートに書き出しておく。	60
第15回	15. 環境保護への企業の取組みの機会と限界	
	テキストの指定された箇所を読み、授業で議論したい問題をノートに書き出しておく。	60
授業の方法		
毎回、担当者を2、3名決めておき、授業の最初にテキストの指定された箇所の要約と簡単なコメントを求める。続いて、全員で討論する。		
成績評価の方法		
平常点（発表、授業中の発言）による。全出席を原則とし、3回を超えて欠席した者には単位を認めない。		
成績評価の基準		
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
特になし。		
テキスト		
ENVIRONMENTAL PROTECTION AND THE SOCIAL RESPONSIBILITY OF FIRMS: PERSPECTIVES FROM LAW, ECONOMICS, AND BUSINESS, Bruce L. Hay, Robert N. Stavins & Richard H.K. Vietor eds., Resources for the Future, 2005, ISBN1-933115-03-3		
参考書		
必要に応じて指示する。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで周知する。		

科目名	刑事学基本研究		
教員名	金 光旭		
科目ナンバー	2060310068	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

刑事政策に関する諸問題を幅広く取り上げ、最新の動向について検討する。

到達目標

DP6（有用な研究課題の設定）及びDP7（研究能力及び基礎的発信力）を実現するため、以下の2点を到達目標とする。

- ① 刑事政策の現状について正確な情報を得る。
- ② 課題を分析するための基礎能力を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	犯罪統計の見方		90分
	配布資料を読む。		
第2回	治安情勢の分析（1）		90分
	配布資料を読む。		
第3回	治安情勢の分析（2）		90分
	配布資料を読む。		
第4回	終身刑		90分
	配布資料を読む。		
第5回	罰金刑		90分
	配布資料を読む。		
第6回	没収・追徴		90分
	配布資料を読む。		
第7回	起訴猶予		90分
	配布資料を読む。		
第8回	量刑		90分
	配布資料を読む。		
第9回	施設内処遇		90分
	配布資料を読む。		
第10回	PFI刑務所		90分
	配布資料を読む。		

第11回	仮釈放	
	配布資料を読む。	90分
第12回	保護観察	
	配布資料を読む。	90分
第13回	新たな社会内処遇制度	
	配布資料を読む。	90分
第14回	犯罪被害者の保護・救済（1）	
	配布資料を読む。	90分
第15回	犯罪被害者の保護・救済（2）	
	配布資料を読む。	90分
第16回	修復的司法	
	配布資料を読む。	90分
第17回	犯罪の予防	
	配布資料を読む。	90分
第18回	少年非行（1）	
	配布資料を読む。	90分
第19回	少年非行（2）	
	配布資料を読む。	90分
第20回	組織犯罪	
	配布資料を読む。	90分
第21回	薬物犯罪	
	配布資料を読む。	90分
第22回	精神障害者の犯罪（1）	
	配布資料を読む。	90分
第23回	精神障害者の犯罪（2）	
	配布資料を読む。	90分
第24回	高齢者の犯罪	
	配布資料を読む。	90分

第25回	児童虐待	
	配布資料を読む。	90分
第26回	交通犯罪	
	配布資料を読む。	90分
第27回	外国人犯罪	
	配布資料を読む。	90分
第28回	再犯防止（1）	
	配布資料を読む。	90分
第29回	再犯防止（2）	
	配布資料を読む。	90分
第30回	まとめ	
	これまでの検討内容を整理する。	90分
授業の方法		
あらかじめ指定されたテーマについて十分な予習をしていることを前提に、履修者全員がディスカッションを行う方式で進める。		
成績評価の方法		
ディスカッションにおける発言やレポートを重視して評価する。		
成績評価の基準		
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
刑法、刑事訴訟法。		
テキスト		
毎回資料を配布する。		
参考書		
追って指示する。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで周知する。		

科目名	法社会学特殊研究		
教員名	吾妻 聡		
科目ナンバー	2060310069	単位数	2
配当年次	開講時期	2019年度 後期	
テーマ・概要			
20世紀・21世紀アメリカ法理論上の重要文献を精読し、法社会学・批判法学・フェミニズム法学・批判的人種理論・障害法学といった、進歩主義的法学の展開を考察する。(英語の文献が多く含まれていますが、抜粋もしくは翻訳を利用するなどしながら、受講生の英語能力の向上のために、無理のない適切な量と質の英文講読を行います。)			
到達目標			
DP6 (有用な研究課題の設定) 及びDP7 (研究能力及び基礎的発信力) を実現するために、以下の諸点を到達目標とする。 一英語の文献に触れながら、自由・平等・連帯といった法理念とその実現のあり方について考察し、自己の研究課題の方向性を見極める。 一アメリカ現代法学の重要文献を精読することを通して、現代社会における法学の課題・機能・限界を考察するとともに、英語読解力・英語による研究遂行能力を高める。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容 準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	講義の全体像: 受講上の諸注意、自己紹介、評価の方法、授業の全体像を説明する。 - 文献 棚瀬孝雄「法の近代と脱近代—法理論から法実務へ—」(中央ロージャーナル第11巻第3号)		70分
第2回	法社会学①: 法の逆機能を鋭く指摘した法社会学の重要文献を考察する。 - 文献 Galanter, "Why the 'Haves' Come Out Ahead: Speculations on the Limits of Legal Change," 9 Law and Society Review 95 (1974)		90分
第3回	法社会学②: 法の機能、権利運動論に関する法社会学の重要文献を考察する。 - 文献 Michael McCann, "Rights at Work" (1994).		90分
第4回	批判法学①: 財産権が内包するもう一つの法理念(信頼利益の保護)について考察する。 - 文献 Joseph Singer, The Reliance Interest in Property, 40 Stan.L.Rev 614 (1988)		90分
第5回	批判法学②: 貧困問題・住宅問題に関する批判法学の重要文献を考察する。 - 文献 Kennedy, The Effect of the Warranty of Habitability on Low Income Housing, 15 Fla. St. U. L. Rev. 485 (1987)		90分
第6回	批判法学③: 差別問題に関する批判法学の重要文献を考察する。 - 文献 Alan Freeman, Antidiscrimination Law: The View from 1989, 64 Tul. L. Rev. 1407 (1989)		90分
第7回	批判法学④: 差別法理に関する批判法学の重要文献を講読する。 - 文献 Balkin & Seigel, The American Civil Rights Tradition: Anticlassification or Antisubordination? 58 U. Miami L. Rev. 9 (2004)		90分
第8回	フェミニズム法学①: 法学とジェンダー論の協働の可能性を考察する。 - 文献 MacKinnon, "Feminism, Marxism, Method, and the State: An Agenda for Theory," 7:3 Signs: Journal of Women in Culture and Society 515 (1982)		90分
第9回	フェミニズム法学②: 法学とジェンダー論の協働の可能性を考察する。 - 文献 MacKinnon, "Feminism, Marxism, Method, and the State: Toward a Feminist Jurisprudence," 8 Signs: Journal of Women, Culture, and Society 635 (1983)		90分

第10回	批判的人種理論①：人種差別の解消を目指す法理論（批判的人種理論）について考察する。	
	- 文献 Kimberlé Crenshaw, Neil Gotanda, Gary Peller, and Kendall Thomas, eds., "Introduction," <i>Critical Race Theory: The Key Writings that Formed the Movement</i> , The New Press, New York, 1996 at xiii-xxxii 887	90分
第11回	批判的人種理論②：人種差別の解消を目指す法理論（批判的人種理論）について考察する。	
	- 文献 C.R.Lawrence, III, "Unconscious Racism Revisited: Reflections on the Impact and Origins of The Id, the Ego, and Equal Protection" 40 Conn. L. Rev. 931 (2008) Cf. C.R. Lawrence, III, "The Id, The Ego, and Equal Protection: Reckoning with Unconscious Racism," 39 Stan. L. Rev. 317 (1987)	90分
第12回	法と心理学①：無意識の（人種）差別を告発する重要文献を講読する	
	- 文献 Greenwald & Krieger, <i>Implicit bias: Scientific foundations</i> . 94. The Cal. L. Rev, 945	90分
第13回	法と心理学②：無意識の（人種）差別を告発する重要文献を講読する。	
	- 文献 Kang, "Trojan horses of race," 118 Harv. L. Rev.1489	90分
第14回	障害法学①：障害者差別解消に焦点を合わせた法理論の動向を考察する。	
	- 文献 Bagenstos, "Law and the Contradictions of the Disability Rights Movement." (2009) ; "Subordination, Stigma, and 'Disability'." 86 Va. L. Rev. 397 (2000)	90分
第15回	障害法学②：障害者差別解消に焦点を合わせた法理論の動向を考察する。	
	- 文献 Baganstos, "The Structural Turn and the Limits of Antidiscrimination Law." 22 C. R. Litig. & Att'y Fees Ann. Handbook 56 (2006)	90分
授業の方法		
1. 報告の基礎となる教科書・基本文献を担当教員が紹介する。 2. 参加者が45分～60分間の報告をする。（報告者はレジュメをご用意ください。） 3. 報告をもとに、参加者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。		
成績評価の方法		
平常点（出席・参加姿勢）40%、報告（文献の読解力・レジュメの充実度・問題提起の適切さ）60%として評価する。		
成績評価の基準		
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
第1回の文献 棚瀬孝雄「法の近代と脱近代—法理論から法実務へ—」（中央ロージャーナル第11巻第3号）が基礎知識の獲得に最適です。		
テキスト		
各回の「文献」を参照。		
参考書		
同上。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで周知する。 *ただし、必ず事前にメールでアポイントメントをとってください。		

科目名	法社会学基本研究		
教員名	吾妻 聡		
科目ナンバー	2060310070	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

アメリカ法理論・基礎法学上の基本文献を購読しながら、法の支配論・公私二分論・所有権論などの法の基本理念・基礎概念の変遷と発展を追う。
以下のリスト及び学生の興味・関心に基づいて基礎文献を選定し、各回ごとに報告者を決めて議論をなす。

〔文献リスト〕（ * 以下の全てを読むという趣旨ではありません。数本の論文を選定し、受講生の英語力に合わせて適度な量と速度で丁寧に読みます。）

1. Joseph Singer, The Reliance Interest in Property, 40 Stan.L.Rev 614 (1988)
 2. William Simon, Social Republican Property, 38 U.C.L.A. L. Rev. 1335 (1991)
 3. Kenneth VanDevelde, The New Property of Nineteenth Century, 29 Buff. L. Rev. 325(1980)
 4. Morris Cohen, Property and Sovereignty, 13 Cornell L.Q. 8 (1927)
 5. Felix Cohen, Dialogue on Private Property, 9 Rutgers L. Rev. 357(1954)
 6. Charles Reich, The New Property, 73 Yale L.J. 733 (1964)
 7. Mary Glendon, The Transformation of American Landlord-Tenant Law, 23 Boston Coll. L. Rev. 503(1982)
 8. Edward H. Radin The Revolution in Residential Landlord-Tenant Law, 69 Cornell L. Rev. 517(1984)
 9. Duncan Kennedy, The Effect of the Warranty of Habitability on Low Income Housing, 15 Fla. St. U. L. Rev. 485 (1987)
 10. Frank Michelman, Property, Utility, and Fairness, 80 Harv. L. Rev. 1165(1967)
 11. Thomas Grey, The Disintegration of Property, in Property: Nomos XXII 69 (1980)
 12. Robert Nozick, Anarchy, State and Utopia (1974) excerpt
 13. Richard Epstein, Takings: Private Property and The Power of Eminent Domain (1985) excerpt
 14. Robert Ellickson, Alternative to Zoning, 40 U. Chi. L. Rev. 681(1973)
 15. Margaret Jane Radin, Market-Inalienability 100 Harv. L. Rev. 1849 (1987)
- その他の基本文献。

到達目標

DP6（有用な研究課題の設定）及びDP7（研究能力及び基礎的発信力）を実現するために、以下の諸点を到達目標とする。
一英語文献に触れながら、法学上の基本理念・概念（本講義では、法の支配や所有概念） について考察を深め、自身の研究課題を見極める。
一アメリカ現代法学の基礎文献を精読することを通して、法学の課題・機能・限界を考察するとともに、英語読解力・英語による研究遂行能力を高める。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	講義の全体像：受講上の諸注意、自己紹介、評価の方法、授業の全体像を説明する。各回の報告者を選定する。	
	-文献 棚瀬孝雄「法の近代と脱近代—法理論から法実務へ—」（中央ロージャーナル第11巻第3号）	70分
第2回	リストから選定した基礎文献の購読	
	[報告者]報告レジュメ・パワーポイント等を用意する。 [参加者全員] 必読文献をしっかりと予習して、質問を考えておく。	90分
第3回	同上	
	同上	90分
第4回	同上	
	同上	90分
第5回	同上	
	同上	90分
第6回	同上	
	同上	90分
第7回	同上	
	同上	90分

第8回	同上	
	同上	90分
第9回	同上	
	同上	90分
第10回	同上	
	同上	90分
第11回	同上	
	同上	90分
第12回	同上	
	同上	90分
第13回	同上	
	同上	90分
第14回	同上	
	同上	90分
第15回	前期のまとめ	
	参加者全員で前期購読文献の総括を行う。	60分
第16回	後期の授業の進め方の説明。報告者の選定と報告順序の決定。	
	-文献 棚瀬孝雄「法の近代と脱近代—法理論から法実務へ—」（中央ロージャーナル第11巻第3号）再読。	70分
第17回	リストから選定した基礎文献の購読	
	[報告者]報告レジュメ・パワーポイント等を用意する。 [参加者全員] 必読文献をしっかりと予習して、質問を考えておく。	90分
第18回	同上	
	同上	90分
第19回	同上	
	同上	90分
第20回	同上	
	同上	90分
第21回	同上	
	同上	90分
第22回	同上	
	同上	90分
第23回	同上	
	同上	90分

第24回	同上	
	同上	90分
第25回	同上	
	同上	90分
第26回	同上	
	同上	90分
第27回	同上	
	同上	90分
第28回	同上	
	同上	90分
第29回	同上	
	同上	90分
第30回	後期のまとめ	
	参加者全員で後期購読文献の総括を行う。	60分
授業の方法		
1. 報告の基礎となる教科書・基本文献を担当教員が紹介する。 2. 参加者が45分～60分間の報告をする。(報告者はレジюмеをご用意ください。) 3. 報告をもとに、参加者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。		
成績評価の方法		
平常点(出席・参加姿勢)40%、報告(文献の読解力・レジюмеの充実度・問題提起の適切さ)60%として評価する。		
成績評価の基準		
成蹊大学大学院の成績評価基準(学則第11条の2)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.		
必要な予備知識/先修科目/関連科目		
第1回の文献 棚瀬孝雄「法の近代と脱近代—法理論から法実務へ—」(中央ロージャーナル第11巻第3号)が基礎知識の獲得に最適です。		
テキスト		
概要のリストを参照。		
参考書		
同上。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルで周知する。 *ただし、必ず事前にメールでアポイントメントをとって下さい。		

科目名	民法基本演習II		
教員名	塩澤 一洋		
科目ナンバー	2060320016	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

民法の各分野にわたって、履修者の研究テーマに最も関係の深い内容を扱います。その過程で、民法の体系的な把握と本質的な理解を深めます。また、各履修者のタームペーパーにつながる研究について、ともに起案し、相互に評価を加えながら、研究内容を深めていきます。

到達目標

DP2（課題の発見と解決）、3（他者との協働）、4（自発性、積極性）、5（表現力、発信力）、6（有用な研究課題の設定）、7（研究能力及び基礎的発信力）を実現するため、「法的論理に裏打ちされた文章表現と口頭表現により、研究を深化させる」ことを到達目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第2回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第3回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第4回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第5回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第6回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第7回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第8回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第9回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第10回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分

第11回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第12回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第13回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第14回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第15回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第16回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第17回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第18回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第19回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第20回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第21回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第22回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第23回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第24回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分

第25回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第26回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第27回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第28回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第29回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第30回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
授業の方法		
ディスカッションです。積極的に貢献してください。		
成績評価の方法		
貢献を評価します。		
成績評価の基準		
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
なし		
テキスト		
六法（法令集）		
参考書		
必要に応じて適宜紹介します。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで公開します。		

科目名	知的財産権法基本演習II		
教員名	塩澤 一洋		
科目ナンバー	2060320073	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要
 著作権法の各分野にわたって、履修者の研究テーマに最も関係の深い内容あるいは履修者が最も関心の深い内容を扱います。その過程で、著作権法の体系的な把握と本質的な理解を深めます。また、各履修者のタームペーパーにつながる研究について、ともに起案し、相互に評価を加えながら、研究内容を深めていきます。

到達目標
 DP2（課題の発見と解決）、3（他者との協働）、4（自発性、積極性）、5（表現力、発信力）、6（有用な研究課題の設定）、7（研究能力及び基礎的発信力）を実現するため、「法的論理に裏打ちされた文章表現と口頭表現により、研究を深化させる」ことを到達目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第2回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第3回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第4回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第5回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第6回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第7回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第8回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第9回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第10回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分

第11回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第12回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第13回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第14回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第15回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第16回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第17回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第18回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第19回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第20回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第21回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第22回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第23回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第24回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分

第25回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第26回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第27回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第28回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第29回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
第30回	履修者と相談してテーマを設定します。	
	各論点を条文に照らして検討し論述する。	1日120分
授業の方法		
ディスカッションです。積極的に貢献してください。		
成績評価の方法		
貢献を評価します。		
成績評価の基準		
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
なし		
テキスト		
六法（法令集）		
参考書		
必要に応じて適宜紹介します。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで公開します。		

科目名	政治学基本研究 I		
教員名	野口 雅弘		
科目ナンバー	2060330002	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要
この科目では、(1) 洋書 (Rainer Forst, Toleration in Conflict, Cambridge University Press, 2016の部分コピー配布する) を読むこと、(2) 日本語の文献 (受講者と相談) を読むこと、そして (3) 参加者の個人報告を中心にして、政治思想史・現代政治理論の分野の研究を深めます。

到達目標
DP 6 (専門分野の知識・理解) を実現するために以下の 4 点を目標とする。
 ・ 政治思想史の基本的な知識を身につける。
 ・ 他者理解の作法を学ぶ。
 ・ 議論するスキルを上げる。
 ・ 政治学的視座に基づいて、現代社会が抱える諸問題を構造的に理解する力を養成する。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	自分の問題関心を簡潔に話せるように準備してくる。ぜひこの授業で読みたいと思う文献を考えてくる。	30分
第2回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジюме準備。	60分
第3回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジюме準備。	60分
第4回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジюме準備。	60分
第5回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジюме準備。	60分
第6回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジюме準備。	60分
第7回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジюме準備。	60分
第8回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジюме準備。	60分
第9回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジюме準備。	60分
第10回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジюме準備。	60分

第11回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジュメ準備。	60分
第12回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジュメ準備。	60分
第13回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジュメ準備。	60分
第14回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジュメ準備。	60分
第15回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジュメ準備。	60分
第16回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジュメ準備。	60分
第17回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジュメ準備。	60分
第18回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジュメ準備。	60分
第19回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジュメ準備。	60分
第20回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジュメ準備。	60分
第21回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジュメ準備。	60分
第22回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジュメ準備。	60分
第23回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジュメ準備。	60分
第24回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジュメ準備。	60分

第25回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジュメ準備。	60分
第26回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジュメ準備。	60分
第27回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジュメ準備。	60分
第28回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジュメ準備。	60分
第29回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジュメ準備。	60分
第30回	文献購読と個人報告	
	テキストを読んでくる。報告者はレジュメ準備。	60分
授業の方法		
英語論文、日本語文献、個人報告を組み合わせる。		
成績評価の方法		
授業貢献、レジュメ報告など、平常点。		
成績評価の基準		
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
特になし。		
テキスト		
Rainer Forst, Toleration in Conflict, Cambridge University Press, 2016、部分コピー配布。 その他、受講者の希望を聞いて決める。		
参考書		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで周知する。		

科目名	政治学基本研究II		
教員名	西山 隆行		
科目ナンバー	2060330004	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要
 現代政治を読み解き、理解するための視座を養うことを目的としている。幅広い分野にわたる基本的知識の習得を目的とするため、特定のテーマのみを掘り下げることはいない。
 前半では日本語の代表的な政治学のテキストと関連文献を読み込む。
 後半では英語で書かれたテキストを読み、基本的な知識の定着を図る。
 また、学期末には自らが設定したテーマについてのリサーチペーパーを作成していただくため、その準備作業も行う。

到達目標
 基本的な文献を読み、理解する (DP1、DP2)。自ら考えたことを口頭でプレゼンテーションできるようにするとともに、文章で表現できるようになることを目指す (DP5、DP7)。また、自ら課題を設定したうえで、学術論文を執筆できるだけの能力を身につける (DP4)。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	自らの研究テーマを他の人に体系的に説明できるよう準備してくる。また、自らの研究テーマに係る重要な学術論文や著書についてのリストを作成してくる。	300分
第2回	イントロダクション	
	指定されたテキストの該当箇所を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成してくる。	300分
第3回	民主政治	
	指定されたテキストの該当箇所を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成してくる。	300分
第4回	民主政治の制度	
	指定されたテキストの該当箇所を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成してくる。	300分
第5回	官僚制	
	指定されたテキストの該当箇所を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成してくる。	300分
第6回	世論	
	指定されたテキストの該当箇所を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成してくる。	300分
第7回	メディア	
	指定されたテキストの該当箇所を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成してくる。	300分
第8回	利益集団	
	指定されたテキストの該当箇所を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成してくる。	300分
第9回	政党	
	指定されたテキストの該当箇所を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成してくる。	300分
第10回	政治参加	
	指定されたテキストの該当箇所を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成してくる。	300分

第11回	国際政治	
	指定されたテキストの該当箇所を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成してくること。	300分
第12回	国際政治経済	
	指定されたテキストの該当箇所を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成してくること。	300分
第13回	アイデンティティ・ポリティクス	
	指定されたテキストの該当箇所を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成してくること。	300分
第14回	リサーチペーパー経過報告	
	リサーチペーパーの準備をしていくこと。	300分
第15回	リサーチペーパー完成	
	リサーチペーパーを完成させていくこと。	300分
第16回	研究構想報告	
	自らの研究テーマを他の人に体系的に説明できるよう準備していくこと。また、自らの研究テーマに関する重要な学術論文や著書についてのリストを作成していくこと。	300分
第17回	Introduction	
	Taylor, et. al. A Different Democracy, chap. 1を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成していくこと。	300分
第18回	Political Engineering and U.S. Constitutions	
	Taylor, et. al. A Different Democracy, chap. 2を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成していくこと。	300分
第19回	Constitutions	
	Taylor, et. al. A Different Democracy, chap. 3を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成していくこと。	300分
第20回	Federalism and Divisions of Powers	
	Taylor, et. al. A Different Democracy, chap. 4を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成していくこと。	300分
第21回	Elections and Electoral Systems	
	Taylor, et. al. A Different Democracy, chap. 5を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成していくこと。	300分
第22回	Political Parties, Election Campaigns, and Interest Groups	
	Taylor, et. al. A Different Democracy, chap. 6を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成していくこと。	300分
第23回	Legislative Power	
	Taylor, et. al. A Different Democracy, chap. 7を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成していくこと。	300分

第24回	Executive Power	
	Taylor, et. al. A Different Democracy, chap. 8を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成し てくること。	300分
第25回	Judicial Power	
	Taylor, et. al. A Different Democracy, chap. 9を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成し てくること。	300分
第26回	Comparative Conclusions	
	Taylor, et. al. A Different Democracy, chap. 10を読み、その内容要約と分析を記した文章を作成し てくること。	300分
第27回	リサーチ・デザイン1	
	リサーチ・デザインを作成してくること	300分
第28回	リサーチ・デザイン2	
	リサーチ・デザインを改良してくること	300分
第29回	リサーチペーパー作成	
	リサーチペーパーの第一稿を作成してくること	300分
第30回	リサーチペーパー完成	
	リサーチペーパーを完成してくること	300分
授業の方法		
文献購読を行う際には、全員がテキストを読み、内容の要約とコメントを記したものを準備して、事前に共有する。授業時には、それらを踏まえたうえで、全員で討論する。		
成績評価の方法		
テキスト読解と資料作成、プレゼンテーション、討論、リサーチペーパーの内容に応じて、総合的に評価する。		
成績評価の基準		
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
学部時代に履修した政治学関係の授業の内容を復習してくること。		
テキスト		
前期 現在作成中の政治学のテキストのコピーを配布する。 その他関連文献 後期 Steven L. Taylor, Matthew S. Shugart, Arend Lijphart, and Bernard Grofman, A Different Democracy: American Government in a 31-Country Perspective, (Yale University Press, 2014)		
参考書		
随時、参考文献を紹介する。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで周知する。		

科目名	政治学基本研究III		
教員名	平石 耕		
科目ナンバー	2060330005	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要
政治学研究の第一線で議論されるさまざまな問題をまなび討論する、学生・教員参加の研究会形式の授業である。

到達目標
DP6（有用な研究課題の設定）とDP7（研究能力及び基礎的発信力）の実現を図るために、研究会への参加を通じて政治学関連のさまざまな分野で問われている問題とその現状を理解し、また、政治学を研究し政治学の学術論文を書くために必要な方法を身につけることを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	内外の研究者による研究報告および討論		60
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること		
第2回	内外の研究者による研究報告および討論		60
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること		
第3回	内外の研究者による研究報告および討論		60
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること		
第4回	内外の研究者による研究報告および討論		60
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること		
第5回	内外の研究者による研究報告および討論		60
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること		
第6回	内外の研究者による研究報告および討論		60
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること		
第7回	内外の研究者による研究報告および討論		60
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること		
第8回	内外の研究者による研究報告および討論		60
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること		
第9回	内外の研究者による研究報告および討論		60
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること		
第10回	内外の研究者による研究報告および討論		60
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること		

第11回	内外の研究者による研究報告および討論	
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること	60
第12回	内外の研究者による研究報告および討論	
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること	60
第13回	内外の研究者による研究報告および討論	
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること	60
第14回	内外の研究者による研究報告および討論	
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること	60
第15回	内外の研究者による研究報告および討論	
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること	60
第16回	内外の研究者による研究報告および討論	
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること	60
第17回	内外の研究者による研究報告および討論	
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること	60
第18回	内外の研究者による研究報告および討論	
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること	60
第19回	内外の研究者による研究報告および討論	
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること	60
第20回	内外の研究者による研究報告および討論	
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること	60
第21回	内外の研究者による研究報告および討論	
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること	60
第22回	内外の研究者による研究報告および討論	
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること	60
第23回	内外の研究者による研究報告および討論	
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること	60
第24回	内外の研究者による研究報告および討論	
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること	60

第25回	内外の研究者による研究報告および討論	
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること	60
第26回	内外の研究者による研究報告および討論	
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること	60
第27回	内外の研究者による研究報告および討論	
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること	60
第28回	内外の研究者による研究報告および討論	
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること	60
第29回	内外の研究者による研究報告および討論	
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること	60
第30回	内外の研究者による研究報告および討論	
	必要に応じて関連文献などを各自確認すること	60
授業の方法		
(1) 報告者による報告と (2) 参加者 (教員・学生) による質疑応答・討論が中心となる。		
成績評価の方法		
基本的に平常点に基づく。ただし報告をたんに「拝聴」するだけでなく、積極的に議論に参加することが肝要である。		
成績評価の基準		
成蹊大学大学院の成績評価基準 (学則第11条の2) に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
特になし。しかしあえて言えば、自分が大学院生として特定の専門知識の修得に努めているのだという自覚・自負と、そうした専門知識をより広い視点の中で位置づけようとする開かれた知性を目指す態度。		
テキスト		
必要に応じて適宜指示する。		
参考書		
適宜指示する。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
学内専用ホームページで周知する。		

科目名	政治学史特殊研究		
教員名	平石 耕		
科目ナンバー	2060330006	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

この授業では、19世紀末から20世紀半ばにかけてのイギリス政治思想史において、民主主義・自由主義・社会主義がどのように関連づけて理解されていたのかを当時のテキストを読解しながら検討したい。今回は、A. D. Lindsay, *The Modern Democratic State* (Oxford, 1943) をメイン・テキストとして読み進めながら、折にふれて同時代のさまざまな思潮を紹介・検討する予定である。

※なお、本科目においては、受講者の希望に応じて適宜テキストを差し替える可能性がある。

到達目標

DP6（専門分野の知識・理解）、DP7（総合的判断力）を実現するため、以下の二点を到達目標とする。

- (1) 専門的な分野の外国語文献を十分に理解できる。
- (2) 19世紀後半から20世紀半ばのイギリス政治思想史における民主主義・自由主義・社会主義の関連について、基礎的な知識を身につけている。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス、イントロダクション	
	ODNBなど事典類を利用したLindsayに関する下調べなど。	90
第2回	A. D. Lindsay, <i>Modern Democratic State</i> , Ch. 1.	
	(1) テキスト該当範囲の予習・復習 (2) (1)を通じた、自分の専門分野をもとにしたコメントの用意	240
第3回	A. D. Lindsay, <i>Modern Democratic State</i> , Ch. 2.	
	(1) テキスト該当範囲の予習・復習 (2) (1)を通じた、自分の専門分野をもとにしたコメントの用意	240
第4回	A. D. Lindsay, <i>Modern Democratic State</i> , Ch. 3.	
	(1) テキスト該当範囲の予習・復習 (2) (1)を通じた、自分の専門分野をもとにしたコメントの用意	240
第5回	A. D. Lindsay, <i>Modern Democratic State</i> , Ch. 4.	
	(1) テキスト該当範囲の予習・復習 (2) (1)を通じた、自分の専門分野をもとにしたコメントの用意	240
第6回	A. D. Lindsay, <i>Modern Democratic State</i> , Ch. 5.	
	(1) テキスト該当範囲の予習・復習 (2) (1)を通じた、自分の専門分野をもとにしたコメントの用意	240
第7回	A. D. Lindsay, <i>Modern Democratic State</i> , Ch. 6.	
	(1) テキスト該当範囲の予習・復習 (2) (1)を通じた、自分の専門分野をもとにしたコメントの用意	240
第8回	A. D. Lindsay, <i>Modern Democratic State</i> , Ch. 7.	
	(1) テキスト該当範囲の予習・復習 (2) (1)を通じた、自分の専門分野をもとにしたコメントの用意	240
第9回	A. D. Lindsay, <i>Modern Democratic State</i> , Ch. 8.	
	(1) テキスト該当範囲の予習・復習 (2) (1)を通じた、自分の専門分野をもとにしたコメントの用意	240

	(1) テキスト該当範囲の予習・復習 (2) (1) を通じた、自分の専門分野をもとにしたコメントの用意	240
第10回	A. D. Lindsay, Modern Democratic State, Ch.9.	
	(1) テキスト該当範囲の予習・復習 (2) (1) を通じた、自分の専門分野をもとにしたコメントの用意	240
第11回	A. D. Lindsay, Modern Democratic State, Ch.10.	
	(1) テキスト該当範囲の予習・復習 (2) (1) を通じた、自分の専門分野をもとにしたコメントの用意	240
第12回	A. D. Lindsay, Modern Democratic State, Ch.11.	
	(1) テキスト該当範囲の予習・復習 (2) (1) を通じた、自分の専門分野をもとにしたコメントの用意	240
第13回	Richard McKeon (ed.), Democracy in a World of Tensions (UNESCO, 1949), ch.15	
	(1) テキスト該当範囲の予習・復習 (2) (1) を通じた、自分の専門分野をもとにしたコメントの用意	240
第14回	A. D. Lindsay, Pacifism as a Principle and a Pacifism as a Dogma	
	(1) テキスト該当範囲の予習・復習 (2) (1) を通じた、自分の専門分野をもとにしたコメントの用意	240
第15回	総括	
	(1) これまでの授業の復習 (2) これまでの授業を通じて学んだことについてのコメントの用意	240
授業の方法		
(1) 担当箇所に関する受講者の発表、(2) 教員によるコメント、(3) その後の全員による討論が、中心となるが、場合によっては全員による読み合わせという形をとる。		
成績評価の方法		
発表 (50%) ・ 討論 (50%) の状況を考慮して総合的に評価する。		
成績評価の基準		
成蹊大学大学院の成績評価基準 (学則第11条の2) に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
一般的な西洋政治思想史の知識 一般的な近現代イギリス史の知識 一般的な英語読解能力		
テキスト		
初回時に指示する。		
参考書		
追って指示する。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
学内専用ホームページで周知する。		

科目名	日本政治史特殊研究		
教員名	井上 正也		
科目ナンバー	2060330012	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

修士論文として政治史・外交史・国際関係史の論文を執筆するための方法論を学ぶ。毎回学術書や最新の学術論文の二つを輪読して比較し、日本外交史の最新の研究動向がどのようになっているかを把握する。

到達目標

- DP6（専門分野の知識・理解）を実現するために以下の三点を目標とする。
- 1 歴史（政治外交史）を題材に政策形成のメカニズムを理解する
 - 2 特定の政治課題について分析しまとめる能力を身につける
 - 3 戦後政治をテーマについて共同研究を行い、コミュニケーション能力を身につける

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション	
	自己紹介・報告者割当などを行う	10
第2回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第3回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第4回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第5回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第6回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第7回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第8回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第9回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第10回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45

第11回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第12回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第13回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第14回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第15回	総括	
	各自学習内容を振り返る	20
授業の方法		
初回講義で報告者の割当を定める。		
成績評価の方法		
報告（20％）・発言（30％）・コメントシート（50％）。		
成績評価の基準		
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
特になし		
テキスト		
後日指定する		
参考書		
後日指示する		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで周知する。		

科目名	日本政治史基本研究		
教員名	井上 正也		
科目ナンバー	2060330013	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要
 政治史・外交史・国際関係史の論文を執筆するための方法論を学ぶ。学術論文を執筆するためのテーマ選定並びにテーマの関連文献の読み込みを行なう。

到達目標
 DP6（専門分野の知識・理解）を実現するために以下の三点を目標とする。
 1 歴史（政治外交史）を題材に政策形成のメカニズムを理解する
 2 特定の政治課題について分析しまとめる能力を身につける

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション	
	自己紹介・報告者割当などを行う	10
第2回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第3回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第4回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第5回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第6回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第7回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第8回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第9回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第10回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45

第11回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第12回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第13回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第14回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第15回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第16回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第17回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第18回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第19回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第20回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第21回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第22回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第23回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第24回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45

第25回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第26回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第27回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第28回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第29回	指定されたテキストの報告と討論	
	テキスト指定箇所を通読してくる	テキストを読む以外に45
第30回	総括	
	各自学習内容を振り返る	20
授業の方法		
初回講義で報告者の割当を定める。		
成績評価の方法		
中間報告・期末ペーパー（60%）・発言（40%）		
成績評価の基準		
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
特になし		
テキスト		
後日指示する		
参考書		
後日指示する		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで周知する。		

科目名	西洋政治外交史基本研究 I		
教員名	板橋 拓己		
科目ナンバー	2060330015	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
テーマ：戦後ドイツ外交史 本授業では、戦後ドイツ外交史に関する基本的な英文文献を講読する。具体的には、ドイツ外交研究の泰斗ハフテンドルンによる名著の英訳Coming of Age（テキスト欄参照）の通読を予定している。本演習を通じて、大学院で西洋外交史を学ぶ基礎的な力を養ってほしい。			
到達目標			
DP7（研究能力及び基礎的発信力）を実現するため、次の2点を到達目標とする。 1）ドイツ外交の歴史の変遷を国際政治的な背景とともに把握する。 2）英文の概説書を読みこなせるようにする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	担当教員による趣旨説明・自己紹介・2回目以降の演習の調整		
	森井裕一『現代ドイツの外交と政治』（信山社、2008年）を通読しておくこと		120
第2回	演習：報告者による文献の要約報告と、それをふまえた討論		
	テキストの指定された範囲を精読し、分からない箇所は調べ上げてくること。報告者は、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成すること。		*
第3回	演習：報告者による文献の要約報告と、それをふまえた討論		
	テキストの指定された範囲を精読し、分からない箇所は調べ上げてくること。報告者は、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成すること。		*
第4回	演習：報告者による文献の要約報告と、それをふまえた討論		
	テキストの指定された範囲を精読し、分からない箇所は調べ上げてくること。報告者は、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成すること。		*
第5回	演習：報告者による文献の要約報告と、それをふまえた討論		
	テキストの指定された範囲を精読し、分からない箇所は調べ上げてくること。報告者は、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成すること。		*
第6回	演習：報告者による文献の要約報告と、それをふまえた討論		
	テキストの指定された範囲を精読し、分からない箇所は調べ上げてくること。報告者は、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成すること。		*
第7回	演習：報告者による文献の要約報告と、それをふまえた討論		
	テキストの指定された範囲を精読し、分からない箇所は調べ上げてくること。報告者は、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成すること。		*
第8回	演習：報告者による文献の要約報告と、それをふまえた討論		
	テキストの指定された範囲を精読し、分からない箇所は調べ上げてくること。報告者は、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成すること。		*

第21回	演習：報告者による文献の要約報告と、それをふまえた討論	
	テキストの指定された範囲を精読し、分からない箇所は調べ上げてくること。報告者は、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成すること。	*
第22回	演習：報告者による文献の要約報告と、それをふまえた討論	
	テキストの指定された範囲を精読し、分からない箇所は調べ上げてくること。報告者は、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成すること。	*
第23回	演習：報告者による文献の要約報告と、それをふまえた討論	
	テキストの指定された範囲を精読し、分からない箇所は調べ上げてくること。報告者は、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成すること。	*
第24回	演習：報告者による文献の要約報告と、それをふまえた討論	
	テキストの指定された範囲を精読し、分からない箇所は調べ上げてくること。報告者は、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成すること。	*
第25回	演習：報告者による文献の要約報告と、それをふまえた討論	
	テキストの指定された範囲を精読し、分からない箇所は調べ上げてくること。報告者は、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成すること。	*
第26回	演習：報告者による文献の要約報告と、それをふまえた討論	
	テキストの指定された範囲を精読し、分からない箇所は調べ上げてくること。報告者は、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成すること。	*
第27回	演習：報告者による文献の要約報告と、それをふまえた討論	
	テキストの指定された範囲を精読し、分からない箇所は調べ上げてくること。報告者は、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成すること。	*
第28回	演習：報告者による文献の要約報告と、それをふまえた討論	
	テキストの指定された範囲を精読し、分からない箇所は調べ上げてくること。報告者は、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成すること。	*
第29回	演習：報告者による文献の要約報告と、それをふまえた討論	
	テキストの指定された範囲を精読し、分からない箇所は調べ上げてくること。報告者は、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成すること。	*
第30回	まとめ	
	本授業で学んだことをまとめてくること	*

授業の方法

伝統的な演習形式で、テキストの要約報告と、それをふまえた討論が中心となる。したがって報告者（当番制）は、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成・配布し、報告することが求められる。もちろん、全ての参加者がテキストを事前に読んでおくことは大前提である。

準備学修の時間については一概には言えないが、受講者全員が、事前にテキストの指定された範囲を精読し、分からない箇所は調べ上げておくことが要求される。とくに報告者は、報告前の1週間は準備に追われることを覚悟すること。具体的な「準備学修」の内容・方法については演習の初回に指示する。

成績評価の方法

(1) 出席状況、(2) 演習への準備、(3) 討論への積極的参加、(4) 報告・提出物などから、総合的に評価する。なお、毎回の出席が前提であり、無断欠席は厳禁である。また、4回以上欠席（あるいは大幅な遅刻を）した者には単位の修得は認められない（病気など特別の理由がある場合には応相談）。付け加えるなら、余りに消極的な履修者（予習不足など）には、たとえ開講後でも参加をお断りすることがあるので注意されたい。逆に、脱落することなく最後まで演習に参加できれば、少なくとも単位は認定されよう。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

- 1) ドイツ外交の歴史の変遷を国際政治的な背景とともに把握できたか。
- 2) 英文の概説書を読みこなしているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

開講時まで、森井裕一『現代ドイツの外交と政治』（信山社、2008年）を通読しておくこと。

テキスト

Helga Haftendorn, *Coming of Age: German Foreign Policy since 1945*, Lanham, Md.: Rowman & Littlefield, 2006.

※テキストの入手方法については、授業の初回で指示する。

参考書

森井裕一『現代ドイツの外交と政治』信山社、2008年

ティモシー・ガートン・アッシュ『ヨーロッパに架ける橋—東西冷戦とドイツ外交』全2巻、杉浦茂樹訳、みすず書房、2009年（原著1993年）

岩間陽子『ドイツ再軍備』中公叢書、1993年

妹尾哲志『戦後西ドイツ外交の分水嶺—東方政策と分断克服の戦略、1963～1975年』晃洋書房、2011年

高橋進『歴史としてのドイツ統一—指導者たちはどう動いたか』岩波書店、1999年

ヘルマン・ヴェントカー『東ドイツ外交史1949-1989』岡田浩平訳、三元社、2013年

中村登志哉『ドイツの安全保障政策—平和主義と武力行使』一藝社、2006年

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	国際政治特殊研究 I		
教員名	遠藤 誠治		
科目ナンバー	2060330020	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要			
<p>本演習では、世界の安全保障構造の変動をめぐる諸問題を多角的に検討する。</p> <p>イラク戦争以後の世界は、単にグローバル化が進行したというだけではない多様な理由から大きな動揺を経験している。何よりも、米国の国力の相対的衰退と中国の台頭や、EU・ロシア・インドなどの政策によってグローバルな勢力均衡に大きな変化が生じてきている。また、安全保障上の脅威として、他国のみならず、テロリズムや国家の統治能力の衰退などが上げられるようになってきている。つまり、現代の世界は、国家間関係の問題にとどまらない多様な問題が安全保障の問題を左右するようになっていくという、世界秩序の根本的な再編成を経験しているといえるだろう。</p> <p>本演習では、このような関心を背景として、米国を中心とした自由主義的な世界秩序の動揺や新たな政治経済主体の台頭が世界の安全保障の構造に与える影響を多角的に検討する。</p>			

到達目標			
<p>DP1（教養の修得）、DP2（課題の発券と解決）、DP3（他者との協働）、DP4（自発性、積極性）、DP6（有用な研究課題の設定）、DP7（研究能力及び基礎的発信力）を実現するため、以下の内容を到達目標とする</p> <p>演習を通じて、総合的なコミュニケーション能力と上昇収集・分析力の向上を図るが、何よりも、国際政治と安全保障の分野に関する英語論文の読解能力を高めることを中心的課題とする。より具体的には、国際関係の現状について、各国の新聞、雑誌などを、自ら調査・分析し、考えをまとめる能力を身につけることを目指す。</p>			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション 現代国際政治経済の構造的な問題		
	シラバスをよく読んで、ゼミで積極的に学びたい内容を口頭で発表できるように準備しておく。		30分
第2回	Kaldor, Mary, Global Security Cultures. Cambridge: Polity, 2018. の内容を検討する。		
	指定されたテキストを熟読し、その主たる論点に関する著者の見解を整理した上で、自分の見解をレポートにまとめて提出する。		*
第3回	Kaldor, Mary, Global Security Cultures. Cambridge: Polity, 2018. の内容を検討する。		
	指定されたテキストを熟読し、その主たる論点に関する著者の見解を整理した上で、自分の見解をレポートにまとめて提出する。		*
第4回	Kaldor, Mary, Global Security Cultures. Cambridge: Polity, 2018. の内容を検討する。		
	指定されたテキストを熟読し、その主たる論点に関する著者の見解を整理した上で、自分の見解をレポートにまとめて提出する。		*
第5回	Kaldor, Mary, New and Old Wars: Organized Violence in a Global Era. 3rd Edition. Stanford: Stanford University Press, 2012. の内容を検討する。		
	指定されたテキストを熟読し、その主たる論点に関する著者の見解を整理した上で、自分の見解をレポートにまとめて提出する。		*
第6回	Kaldor, Mary, New and Old Wars: Organized Violence in a Global Era. 3rd Edition. Stanford: Stanford University Press, 2012. の内容を検討する。		
	指定されたテキストを熟読し、その主たる論点に関する著者の見解を整理した上で、自分の見解をレポートにまとめて提出する。		*
第7回	Kaldor, Mary, New and Old Wars: Organized Violence in a Global Era. 3rd Edition. Stanford: Stanford University Press, 2012. の内容を検討する。		
	指定されたテキストを熟読し、その主たる論点に関する著者の見解を整理した上で、自分の見解をレポートにまとめて提出する。		*
第8回	Kaldor, Mary, New and Old Wars: Organized Violence in a Global Era. 3rd Edition. Stanford: Stanford University Press, 2012. の内容を検討する。		
	指定されたテキストを熟読し、その主たる論点に関する著者の見解を整理した上で、自分の見解をレポートにまとめて提出する。		*
第9回	Kaldor, Mary, and Shannon D. Beebe, The Ultimate Weapon is No Weapon: Human Security and the New Rules of War and Peace. New York: Public Affairs, 2010. の内容を検討する。		
	指定されたテキストを熟読し、その主たる論点に関する著者の見解を整理した上で、自分の見解をレポートにまとめて提出する。		*

第10回	Kaldor, Mary, and Shannon D. Beebe, <i>The Ultimate Weapon is No Weapon: Human Security and the New Rules of War and Peace</i> . New York: Public Affairs, 2010. の内容を検討する。	
	指定されたテキストを熟読し、その主たる論点に関する著者の見解を整理した上で、自分の見解をレポートにまとめて提出する。	*
第11回	Kaldor, Mary, and Shannon D. Beebe, <i>The Ultimate Weapon is No Weapon: Human Security and the New Rules of War and Peace</i> . New York: Public Affairs, 2010. の内容を検討する。	
	指定されたテキストを熟読し、その主たる論点に関する著者の見解を整理した上で、自分の見解をレポートにまとめて提出する。	*
第12回	Kaldor, Mary, and Shannon D. Beebe, <i>The Ultimate Weapon is No Weapon: Human Security and the New Rules of War and Peace</i> . New York: Public Affairs, 2010. の内容を検討する。	
	指定されたテキストを熟読し、その主たる論点に関する著者の見解を整理した上で、自分の見解をレポートにまとめて提出する。	*
第13回	Mary Kaldor and Joseph Stiglitz, eds. <i>The Quest for Security: Protection Without Protectionism and the Challenge of Global Governance</i> . の内容を検討する	
	指定されたテキストを熟読し、その主たる論点に関する著者の見解を整理した上で、自分の見解をレポートにまとめて提出する。	*
第14回	Mary Kaldor and Joseph Stiglitz, eds. <i>The Quest for Security: Protection Without Protectionism and the Challenge of Global Governance</i> . の内容を検討する	
	指定されたテキストを熟読し、その主たる論点に関する著者の見解を整理した上で、自分の見解をレポートにまとめて提出する。	*
第15回	Mary Kaldor and Joseph Stiglitz, eds. <i>The Quest for Security: Protection Without Protectionism and the Challenge of Global Governance</i> . の内容を検討する	
	指定されたテキストを熟読し、その主たる論点に関する著者の見解を整理した上で、自分の見解をレポートにまとめて提出する。	*
授業の方法		
事前に示したテキストの内容に関するレポートを提出し、それに即した討論を中心に進める。 * テキストの内容を理解し、それに関するレポートを書く。それに要する時間は各自で異なる。		
成績評価の方法		
毎週のレポートの内容と提出状況、報告やコメントの質、日常の発言、学期ごとの最終レポートを総合的に評価する。最終レポートでは、ゼミを通じて自らが学んだことを論文の形にまとめる。		
成績評価の基準		
『成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）』に準拠する。 到達目標に示した内容を基準とする。		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
履修希望者は、ジョセフ・S・ナイ／デイヴィッド・A・ウェルチ（田中明彦・村田晃嗣訳）『国際紛争：理論と歴史[原著第9版]』（有斐閣）の内容を十分理解しておくこと。		
テキスト		
Kaldor, Mary, <i>Global Security Cultures</i> . Cambridge: Polity, 2018. Chinkin, Christine, and Mary Kaldor, <i>International Law and New Wars</i> . Cambridge: Cambridge University Press, 2017. Kaldor, Mary, <i>New and Old Wars: Organized Violence in a Global Era</i> . 3rd Edition. Stanford: Stanford University Press, 2012. Kaldor, Mary, and Shannon D. Beebe, <i>The Ultimate Weapon is No Weapon: Human Security and the New Rules of War and Peace</i> . New York: Public Affairs, 2010. Mary Kaldor and Joseph Stiglitz, eds. <i>The Quest for Security: Protection Without Protectionism and the Challenge of Global Governance</i> . Cambridge University Press, 2013. その他、開講時に指定する。		
参考書		
遠藤誠治・遠藤乾編集代表『シリーズ 日本の安全保障』全8巻 岩波書店（2014年～2015年） 坂本義和『坂本義和集』全6巻 岩波書店（2004年～2005年） 坂本義和『権力政治を超える道』岩波書店（2015年） 坂本義和『平和研究の未来責任』岩波書店（2015年） その他、開講時に指定する。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで周知する。		

科目名	国際政治特殊研究II		
教員名	光田 剛		
科目ナンバー	2060330023	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

テーマは「台湾政治史、台湾をめぐる政治史」。
 中国の急激な経済発展や軍事力の増強で、台湾をとりまく国際政治状況はいまも大きく変わりつつあります。それは台湾自体の政治にも強く反映されざるを得ません。そのような状況を、台湾自体と、台湾を取り巻く国際政治の歴史、とくに政治史から概観します。「統一か独立か」問題（統独問題）はもちろん重要ですが、その視角だけでは理解しきれない台湾政治の諸相をともに探ってみましょう。

到達目標

政治学科のDP6 最先端の研究成果を含めた専門学界の現状を俯瞰したうえで、社会と専門学界で有用で、適切な課題を設定する能力を身につける。

政治学科のDP7 先行研究（など）の理解を踏まえて、信頼性が高い研究を遂行する能力および適切な方法で発表する力を身につける。

この授業で扱うのは台湾に関連する事項のみですが、ここには現代世界を見るためのさまざまな視点・考えかたなどが出てきます。それについて、それがどういふことか、これまでどういふことが論じられてきたか、これからどう論じるべきかを考えることを通して、参加者それぞれが政治学的な問題に向かって行くための適切な方法を発見し、身につけることができます。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	この授業に対する関心を整理しておく。	30
第2回	台湾史の基礎を把握する（1）	
	テキストの指定箇所をよく読み、提起したい問題を考えておく。	90
第3回	台湾史の基礎を把握する（2）	
	テキストの指定箇所をよく読み、提起したい問題を考えておく。	90
第4回	台湾と族群：その歴史的背景	
	テキストの指定箇所をよく読み、提起したい問題を考えておく。	90
第5回	日本統治時代の台湾（1）	
	テキストの指定箇所をよく読み、提起したい問題を考えておく。	90
第6回	日本統治時代の台湾（2）	
	テキストの指定箇所をよく読み、提起したい問題を考えておく。	90
第7回	「二・二八」前後（1）	
	テキストの指定箇所をよく読み、提起したい問題を考えておく。	90
第8回	「二・二八」前後（2）	
	テキストの指定箇所をよく読み、提起したい問題を考えておく。	90
第9回	『自由中国』事件と国際関係	
	テキストの指定箇所をよく読み、提起したい問題を考えておく。	90

第10回	国際的緊張緩和と台湾政治（1）	
	テキストの指定箇所をよく読み、提起したい問題を考えておく。	90
第11回	国際的緊張緩和と台湾政治（2）	
	テキストの指定箇所をよく読み、提起したい問題を考えておく。	90
第12回	蔣経国時代の台湾と国際関係	
	テキストの指定箇所をよく読み、提起したい問題を考えておく。	90
第13回	台湾政治の変容（1）	
	テキストの指定箇所をよく読み、提起したい問題を考えておく。	90
第14回	台湾政治の変容（2）	
	テキストの指定箇所をよく読み、提起したい問題を考えておく。	90
第15回	台湾政治の変容（3）	
	テキストの指定箇所をよく読み、提起したい問題を考えておく。	90
授業の方法		
基本的にテキストの指定箇所を各参加者が読んで来て報告・討論を行います。		
成績評価の方法		
各回のゼミへの参加状況をもとに平常点で採点します。		
成績評価の基準		
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
とくにありませんが、中国語は初歩だけでも身につけていたほうが便利だと思います。		
テキスト		
若林正文『台湾の政治： 中華民国台湾化の戦後史』東京大学出版会。		
参考書		
適宜指示しますが、まずテキストを十分に読み込んでください。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで周知する。		

科目名	国際政治基本研究III		
教員名	光田 剛		
科目ナンバー	2060330026	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

テーマ：中国近現代思想の可能性
 今年は1919年5月4日に始まる「五四運動」百周年にあたる。今日、中国が大きく変容しつつあるなか、五四運動や同時代の中国で問われたさまざまな運動が提起した問題は、再び重要性を増しつつある。このことを踏まえて、近世から現在までの中国の政治思想に関連する文献を、できるだけ原典に近い形で読み、その「可能性」を探ってみたい。

到達目標

政治学専攻のDP6 最先端の研究成果を含めた専門学界の現状を俯瞰したうえで、社会と専門学界で有用で、適切な課題を設定する能力を身につける。
 政治学専攻のDP7 先行研究（など）の理解を踏まえて、信頼性が高い研究を遂行する能力および適切な方法で発表する力を身につける。

以上の目標を達成するために、この授業では、現在の研究状況に常に目を配りつつ、テキストの講読を進める。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	大学院入学までに身につけたことを整理しておいてください。	30
第2回	中国政治の近世・近代・現代（この回は講義中心）	
	大学院入学までに身につけたことを整理しておいてください。	90
第3回	新文化運動・五四運動の政治思想（1）	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第4回	新文化運動・五四運動の政治思想（2）	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第5回	新文化運動・五四運動の政治思想（3）	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第6回	東西文化論争と新儒学	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第7回	問題を語ること、主義を語ること	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第8回	国民革命と政治思想	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第9回	内戦の時代と政治評論	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第10回	「民主主義と独裁」論争（1）	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90

第11回	「民主主義と独裁」論争（2）	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第12回	憲法をめぐる論争	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第13回	「漢奸」汪精衛の言い分	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第14回	国民参政会と政治協商会議	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第15回	再び憲法をめぐる論争	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第16回	現代中国（中華人民共和国時代）とは何か？（この回は講義中心）	
	ここまでの授業で身につけたことを整理し、疑問点などをまとめておいてください。。	90
第17回	新民主主義とは何か（1）	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第18回	新民主主義とは何か（2）	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第19回	社会主義国家への道程	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第20回	「百花齊放百家争鳴」の諸相（1）	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第21回	「百花齊放百家争鳴」の諸相（2）	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第22回	大躍進と調整政策	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第23回	文化大革命と毛沢東（1）	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第24回	文化大革命と毛沢東（2）	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第25回	「民主主義と法制」の時代（1）	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90

第26回	「民主主義と法制」の時代（2）	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第27回	八九年民主化運動を読む（1）	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第28回	八九年民主化運動を読む（2）	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第29回	「〇八憲章」とその後（1）	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
第30回	「〇八憲章」とその後（2）	
	テキストを熟読し、各自、論点・問題点を考え、討論に向けた準備を万全に行うこと。	90
授業の方法		
文献講読と討論。なお、各学期の最初は、教員による講義を中心とします。		
成績評価の方法		
平常点で評価します。		
成績評価の基準		
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
学部で学ぶ程度の政治学の基礎はしっかりと身につけておいてください。現代中国政治、日本政治史・外交史、西洋政治史、東洋政治史などの基礎知識は必須です。現代中国語の知識はあったほうが好ましいですが、必須ではありません。		
テキスト		
野村浩一 ほか『（新編）原典中国近代思想史』1-7巻（岩波書店） ここに収録されていない文献を扱うときには別途指示します。		
参考書		
その都度指示します。まずしっかりとテキストを読み込んでください。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトを参照してください。		

科目名	アメリカ政治外交史特殊研究		
教員名	西山 隆行		
科目ナンバー	2060330027	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要
 アメリカ政治外交史の基本について学ぶ。英語で書かれた重要論文を読むことで、基本的な知識を身につけるとともに、検討すべき重要論点などを整理する。2018年度は、アメリカ政治を比較政治の観点から分析したの文献を読む。

到達目標
 アメリカ政治外交史に関する文献を読み、ポイントをつかみ、論点を指摘し、口頭で、また文章で表現する (DP1、DP2、DP3)。一連の作業を通して、アメリカ政治について自ら考え、説明できるようになることが目標である (DP5)。あわせて、英語文献を困難なく読み解くことができるようになることも、目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	基礎的な知識の確認と方法論の検討	
	アメリカ政治についての概説書に目を通してること。	120分
第2回	アメリカ政治入門1	
	西山『アメリカ政治入門』1～3章を読んでまとめてること。	300分
第3回	アメリカ政治入門2	
	西山『アメリカ政治入門』4～6章を読んでまとめてること。	300分
第4回	アメリカ政治入門3	
	西山『アメリカ政治入門』7～9章を読んでまとめてること。	300分
第5回	Introduction	
	A Different Democracy, chap. 1を読んでまとめてること。	300分
第6回	Political Engineering and the US Constitution	
	A Different Democracy, chap. 2を読んでまとめてること。	300分
第7回	Constitutions	
	A Different Democracy, chap. 3を読んでまとめてること。	300分
第8回	Federalism and Divisions of Power	
	A Different Democracy, chap. 4を読んでまとめてること。	300分
第9回	Elections and Electoral Systems	
	A Different Democracy, chap. 5を読んでまとめてること。	300分
第10回	Political Parties, Election Campaigns, and Interest Groups	
	A Different Democracy, chap. 6を読んでまとめてること。	300分

第11回	Legislative Power	
	A Different Democracy, chap. 7を読んでまとめてくること。	300分
第12回	Executive Power	
	A Different Democracy, chap. 8を読んでまとめてくること。	300分
第13回	Judicial Power	
	A Different Democracy, chap. 9を読んでまとめてくること。	300分
第14回	Comparative Conclusions	
	A Different Democracy, chap. 10を読んでまとめてくること。	300分
第15回	リサーチデザインの作成	
	リサーチデザインを作製してくる音。	300分
授業の方法		
履修者全員がテキストの該当部分を熟読したうえで、その内容を文章にまとめてくる。その内容を踏まえて全体で討論する。		
成績評価の方法		
テキストの読解、内容要約、討論への貢献等に応じて、評価する。		
成績評価の基準		
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
アメリカ政治外交史に関する基本的な知識を身につけておくこと。		
テキスト		
西山隆行『アメリカ政治入門』（東京大学出版会、2018年） Steven L. Taylor, Matthew S. Shugart, Arendt Lijphart, & Bernard Grofman, A Different Democracy: American Government in a Thirty-One-Country Perspective, (New Haven: Yale University Press, 2014).		
参考書		
テキストに掲載されている参考文献リストを参照のこと。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで周知する。		

科目名	アメリカ政治外交史基本研究		
教員名	西山 隆行		
科目ナンバー	2060330028	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要
 アメリカの内政と外交の基礎を学ぶ。日本語文献を読む際には1～2週間で一冊のペースで、英語で書かれたテキストを使う場合は週に1～2本のペースで読んでいく。
 前期については、特定のテーマのみを集中的に扱うことはせず、様々なトピックを扱うことで、アメリカの内政と外交の基礎を身につけていただく。
 後期には、いくつかのトピックを選び、それを重点的に分析する。さしあたり、シラバスに掲げている文献を中心に検討する予定だが、そのころまでの出版状況に応じてトピックを調整する可能性がある。
 なお、年度末までに各自でリサーチ・ペーパーを作成していただき、全体で吟味する機会を設ける。

到達目標
 アメリカ政治外交史に関する文献を読み、ポイントをつかみ、論点を指摘し、口頭で、また文章で表現する (DP1、DP2、DP3)。一連の作業を通して、アメリカ政治について自ら考え、説明できるようになることが目標である (DP5)。あわせて、英語文献を困難なく読み解くことができるようになること、履修者が自らの研究内容を深めることを目標とする。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	ガイダンス	
	自らの研究テーマとこのクラスがどのように関連付けられるかを説明できるように準備してくること。	60分
第2回	Introduction: The Trump Effect	
	Developments in American Politics, chap. 1を熟読し、検討してくること。	300分
第3回	Race, Ethnicity and Immigration	
	Developments in American Politics, chap. 2を熟読し、検討してくること。	300分
第4回	Religion and American Politics	
	Developments in American Politics, chap. 3を熟読し、検討してくること。	300分
第5回	The 2016 Elections	
	Developments in American Politics, chap. 4を熟読し、検討してくること。	300分
第6回	Political Parties	
	Developments in American Politics, chap. 5を熟読し、検討してくること。	300分
第7回	Interest Groups and Political Money	
	Developments in American Politics, chap. 6を熟読し、検討してくること。	300分
第8回	The Presidency	
	Developments in American Politics, chap. 7を熟読し、検討してくること。	300分
第9回	Congress	
	Developments in American Politics, chap. 8を熟読し、検討してくること。	300分
第10回	The Supreme Court	
	Developments in American Politics, chap. 9を熟読し、検討してくること。	300分

第11回	States and Cities	
	Developments in American Politics, chap. 10を熟読し、検討してくるこ	300分
第12回	Environment Policy	
	Developments in American Politics, chap. 11を熟読し、検討してくるこ	300分
第13回	The Politics of Social Policy	
	Developments in American Politics, chap. 12を熟読し、検討してくるこ	300分
第14回	Crime, Law and Order	
	Developments in American Politics, chap. 13を熟読し、検討してくるこ	300分
第15回	Foreign and Security Policy	
	Developments in American Politics, chap. 14を熟読し、検討してくるこ	300分
第16回	『民主主義の死に方』1	
	文献を熟読し、検討してくるこ	300分
第17回	『民主主義の死に方』2	
	文献を熟読し、検討してくるこ	300分
第18回	『リベラル再生宣言』1	
	文献を熟読し、検討してくるこ	300分
第19回	『リベラル再生宣言』2	
	文献を熟読し、検討してくるこ	300分
第20回	『新たなマイノリティの誕生』1	
	文献を熟読し、検討してくるこ	300分
第21回	『新たなマイノリティの誕生』2	
	文献を熟読し、検討してくるこ	300分
第22回	『壁の向こうの住人たち』1	
	文献を熟読し、検討してくるこ	300分
第23回	『壁の向こうの住人たち』2	
	文献を熟読し、検討してくるこ	300分
第24回	『操られる民主主義』1	
	文献を熟読し、検討してくるこ	300分
第25回	『操られる民主主義』2	
	文献を熟読し、検討してくるこ	300分

第26回	『恐怖の男』1	
	文献を熟読し、検討してくることに。	300分
第27回	『恐怖の男』2	
	文献を熟読し、検討してくることに。	300分
第28回	リサーチペーパーの検討 (1)	
	リサーチペーパーのドラフトを準備してくることに	300分
第29回	リサーチペーパーの検討 (2)	
	リサーチペーパーのドラフトを準備してくることに	300分
第30回	リサーチペーパーの検討 (3)	
	リサーチペーパーの完成稿を準備してくることに	300分
授業の方法		
演習形式で行う。		
成績評価の方法		
毎週提出するレポート(レジュメ)の内容、討論の質、リサーチペーパーの内容に基づいて評価する。		
成績評価の基準		
<p> 独創的な貢献をしていればS、標準的な貢献をしていればA、必要最低限の貢献をしていればB、十分な貢献とは言えないものの努力が認められる場合はCを与え、そうでない場合はDとなる。「成績評価の方法」欄で記した三つの要件は全て必要条件であり、それぞれ3分の1程度の割合で加点する。 </p>		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
アメリカ政治、アメリカ史、国際関係論の基礎的な知識を身につけていることが望ましい。		
テキスト		
Gillian Peele, et.al. eds., <i>Developments in American Politics 8</i> , (Palgrave, 2018) スティーブン・レビツキー他『民主主義の死に方』(新潮社、2018年) マーク・リラ『リベラル再生宣言』(早川書房、2018年) ジャスティン・ゲスト『新たなマイノリティの誕生』(弘文堂、2019年近刊予定) A.R. ホックシールド『壁の向こうの住人たち』(岩波書店、2018年) ジェイミー・パートレット『操られる民主主義』(草思社、2018年) ボブ・ウッドワード『恐怖の男—トランプ政権の真実』(日本経済新聞社、2018年)		
参考書		
西山隆行『アメリカ政治入門』(東京大学出版会、2018年) 西山隆行『アメリカ政治講義』(ちくま新書、2018年)		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
電子メールでアポイントメントをとっていただければ、随時質問を受け付ける。		

科目名	行政学基本研究 I		
教員名	西村 美香		
科目ナンバー	2060330030	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

公務員制度についての日本語および英語文献を精読し、理論と実務について理解を深める。

到達目標

公務員制度に関する古典から最新の理論まで網羅し、自らの視点から論じることができるようになるのが到達目標である。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション 1年間の学習計画をたてる。	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	120分
第2回	辻清明論文を読む(1)	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	120分
第3回	辻清明論文を読む(2)	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	120分
第4回	辻清明論文を読む(3)	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	120分
第5回	蠟山政道論文を読む	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	120分
第6回	西尾隆論文を読む	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	120分
第7回	村松岐夫論文を読む(1)	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	120分
第8回	村松岐夫論文を読む(2)	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	120分
第9回	村松岐夫論文を読む(3)	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	120分
第10回	坂本勝論文を読む(1)	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	120分
第11回	坂本勝論文を読む(2)	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	120分
第12回	西尾隆論文を読む	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	120分

第13回	川手撰論文を読む(1)	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	120分
第14回	川手撰論文を読む(2)	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	120分
第15回	佐藤達夫論文を読む(1)	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	120分
第16回	佐藤達夫論文を読む(2)	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	120分
第17回	人事院の資料を読む(1)	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	120分
第18回	人事院の資料を読む(2)	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	120分
第19回	OECDの資料を読む(1)	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	120分
第20回	OECDの資料を読む(2)	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	120分
第21回	洋書購読(1) Alexander, Damon & Lewis, Jenny ed. "Making Public Policy Decisions:Expertise, Skills and Experience" Routledge 2014	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	240分
第22回	洋書購読(2) Alexander, Damon & Lewis, Jenny ed. "Making Public Policy Decisions:Expertise, Skills and Experience" Routledge 2014	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	240分
第23回	洋書購読(3) Alexander, Damon & Lewis, Jenny ed. "Making Public Policy Decisions:Expertise, Skills and Experience" Routledge 2014	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	240分
第24回	洋書購読(4) Alexander, Damon & Lewis, Jenny ed. "Making Public Policy Decisions:Expertise, Skills and Experience" Routledge 2014	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	240分
第25回	洋書購読(5) Durant, Robert F. "Why Public Service Matters:Public Managers, Public Policy, and Democracy" Palgrave Macmillan 2014	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	240分

第26回	洋書購読 (6) Durant, Robert F. "Why Public Service Matters:Public Managers, Public Policy, and Democracy" Palgrave Macmillan 2014	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	240分
第27回	洋書購読 (7) Durant, Robert F. "Why Public Service Matters:Public Managers, Public Policy, and Democracy" Palgrave Macmillan 2014	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	240分
第28回	洋書購読 (8) Durant, Robert F. "Why Public Service Matters:Public Managers, Public Policy, and Democracy" Palgrave Macmillan 2014	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	240分
第29回	洋書購読 (9) Durant, Robert F. "Why Public Service Matters:Public Managers, Public Policy, and Democracy" Palgrave Macmillan 2014	
	計画に従って論文を読み、まとめてくる。	240分
第30回	<総括>	
	1年間の読書を踏まえて公務員制度について論文を書く。	240分

授業の方法

計画に定めたスケジュールで文献を読み、内容をまとめてくる。ゼミではその内容について討論しあった後、レポートを書いて提出する作業を繰り返す。最終的には1つの大きな論文を執筆し、1年を締めくくる。

成績評価の方法

宿題の提出、授業での発言、レポートの内容などを合わせて総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準(学則第11条の2)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識/先修科目/関連科目

現代日本の行政、行政学Ⅰ・Ⅱ、地方自治論Ⅰ・Ⅱ、行政法

テキスト

蠟山政道『近代官吏制度の発達』日本評論社(1951年)、『行政学研究論文集』勁草書房(1965年)
辻清明『日本官僚制の研究』弘文堂(1963年)、『公務員制度の研究』東京大学出版会(1991年)
村松岐夫『戦後日本の官僚制』東洋経済新報社(1981年)、『政官スクラム型リーダーシップの崩壊』東洋経済新報社(2010年)
坂本勝『公務員制度の研究』法律文化社(2006年)
佐藤達夫『公務員制度いまと昔:佐藤達夫論稿集』(1975年)
川田撰『戦後琉球の公務員制度史』東京大学出版会(2012年)、『戦後日本の公務員制度史』岩波書店(2005年)
人事院年次報告書
OECD出版物
西尾隆論文はコピーを配布
Alexander, Damon & Lewis, Jenny ed.
"Making Public Policy Decisions:Expertise, Skills and Experience"
Routledge 2014
Durant, Robert F.
"Why Public Service Matters:Public Managers, Public Policy, and Democracy"
Palgrave Macmillan 2014

参考書

授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	政治社会学基本研究 I		
教員名	李 静和		
科目ナンバー	2060330036	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

C・シュミット、H・マイヤー、A・G・デュットマン、G・アガンベンらの作品を主要な対象にして、政治思想・政治哲学における「政治的なもの」への考察を進めていく。

到達目標

様々な文献を中心に考察することによって、「政治的なもの」をめぐるの観念の新たな構築を目指す。それを通じて以下の到達目標も目指す。先行研究の理解を踏まえて、信頼性が高い研究を遂行する能力及び適切な方法で発表する力を身に付けている。(DP7)

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	イントロダクション じゅぎゆうの計画・内容は受講メンバーおよび人数によって変更する場合もあるのでイントロダクションには必ず出席してください。	
	関連資料を読む	60～120
第2回	リーディング及び討論1	
	関連資料を読む	60～120
第3回	リーディング及び討論2	
	関連資料を読む	60～120
第4回	リーディング及び討論3	
	関連資料を読む	60～120
第5回	リーディング及び討論4	
	関連資料を読む	60～120
第6回	リーディング及び討論5	
	関連資料を読む	60～120
第7回	リーディング及び討論6	
	関連資料を読む	60～120
第8回	リーディング及び討論7	
	関連資料を読む	60～120
第9回	リーディング及び討論8	
	関連資料を読む	60～120
第10回	リーディング及び討論9	
	関連資料を読む	60～120
第11回	リーディング及び討論10	
	関連資料を読む	60～120

第12回	リーディング及び討論11	
	関連資料を読む	60～120
第13回	リーディング及び討論12	
	関連資料を読む	60～120
第14回	リーディング及び討論13	
	関連資料を読む	60～120
第15回	リーディング及び討論14	
	関連資料を読む	60～120
第16回	リーディング及び討論15	
	関連資料を読む	60～120
第17回	リーディング及び討論16	
	関連資料を読む	60～120
第18回	リーディング及び討論17	
	関連資料を読む	60～120
第19回	リーディング及び討論18	
	関連資料を読む	60～120
第20回	リーディング及び討論19	
	関連資料を読む	60～120
第21回	リーディング及び討論20	
	関連資料を読む	60～120
第22回	リーディング及び討論21	
	関連資料を読む	60～120
第23回	リーディング及び討論22	
	関連資料を読む	60～120
第24回	リーディング及び討論23	
	関連資料を読む	60～120
第25回	リーディング及び討論24	
	関連資料を読む	60～120
第26回	リーディング及び討論25	
	関連資料を読む	60～120

第27回	リーディング及び討論26	
	関連資料を読む	60~120
第28回	リーディング及び討論27	
	関連資料を読む	60~120
第29回	リーディング及び討論28	
	関連資料を読む	60~120
第30回	リーディング及び討論29	
	関連資料を読む	60~120

授業の方法

発表者、指定されたコメンテーターによる問題提起とそれについての全員の討論となります。そのためには、各自与えられた役割とテーマに関する資料調査及びレジュメ作成が必要です。

成績評価の方法

授業への参加、特に積極的な発言・応答の度合いを大切にします。
 おおまかな評価割合（%）としては、以下のようになります。
 平常点（授業参加の度合い）20%
 発表およびコメントの内容 40%
 発言・応答の内容 40%

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

みなさんの持っている考え、選んだ授業から関連性を見つけてほしいです。

テキスト

『政治的なものの概念』、C・シュミット
 『シュミットとシュトラウス—政治神学と政治哲学との対話』、H・マイアー
 『友愛と敵対—絶対的なものの政治学』A・G・デュットマン
 『人権の彼方に—政治哲学ノート』G・アガンベン

参考書

授業中にお知らせします。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	政治過程論特殊研究		
教員名	高安 健将		
科目ナンバー	2060330039	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要
議院内閣制と政策決定論の展開について概観する。

到達目標
DP6、DP7に基づき、議院内閣制と政策決定論の展開を習得する。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	授業内容の紹介	
	特に必要なし。	10分
第2回	テキストの輪読を行う。	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第3回	テキストの輪読を行う。	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第4回	テキストの輪読を行う。	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第5回	テキストの輪読を行う。	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第6回	テキストの輪読を行う。	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第7回	テキストの輪読を行う。	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第8回	テキストの輪読を行う。	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第9回	テキストの輪読を行う。	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第10回	テキストの輪読を行う。	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第11回	テキストの輪読を行う。	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間

第12回	テキストの輪読を行う。	
	テキストの熟読、レジユメの作成を行う。	5時間
第13回	テキストの輪読を行う。	
	テキストの熟読、レジユメの作成を行う。	5時間
第14回	テキストの輪読を行う。	
	テキストの熟読、レジユメの作成を行う。	5時間
第15回	授業総括	
	授業の総括を行う。	1時間

授業の方法

テキストの輪読を行う。学生は、テキストを読み、レジユメを作成して授業にのぞんでもらいたい。

成績評価の方法

テキストの理解度、授業への貢献度に応じて行う。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

政治過程論
福祉政治論
行政学

テキスト

学生と相談しながら決定する。

参考書

授業の際に学生と相談しながら決定する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	政治過程論基本研究		
教員名	高安 健将		
科目ナンバー	2060330040	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要
現代日本の政治過程を、比較政治学的観点から検討することを目的とする。

到達目標
DP6、DP7に基づき、現代日本の政治過程を、比較政治学的観点から理解することとする。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	授業紹介	
	特に必要なし。	10分
第2回	政治不信と民主シーに関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第3回	政治不信と民主シーに関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第4回	政治不信と民主シーに関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第5回	政治不信と民主シーに関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第6回	政党に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第7回	政党に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第8回	政党に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第9回	政党に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第10回	政党に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第11回	政党に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間

第12回	政官関係に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第13回	政官関係に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第14回	政官関係に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第15回	政官関係に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第16回	政官関係に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第17回	政官関係に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第18回	政官関係に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第19回	政官関係に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第20回	政官関係に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第21回	政官関係に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第22回	政官関係に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第23回	政策決定に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第24回	政策決定に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第25回	政策決定に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第26回	政策決定に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間

第27回	政策決定に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第28回	政策決定に関するテキストを輪読	
	テキストの熟読、レジュメの作成を行う。	5時間
第29回	授業全体の総括	
	取り扱ったテキストを振り返っておく。	5時間
第30回	質疑応答	
	取り扱ったテキストを振り返っておく。	1時間
授業の方法		
テキストの輪読を行う。学生は、テキストを読み、レジュメを作成して授業にのぞんでもらいたい。		
成績評価の方法		
テキストの理解度、授業への貢献度に応じて行う。		
成績評価の基準		
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
現代日本の政治 政治過程論		
テキスト		
授業の際に学生と相談しながら決定する。		
参考書		
授業の際に学生と相談しながら決定する。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで周知する。		

科目名	比較福祉政治論基本研究		
教員名	今井 貴子		
科目ナンバー	2060330042	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

テーマ： 比較福祉政治経済の基本的な理論と方法を学ぶ
 概要：比較福祉政治経済を学ぶ基礎的な理論枠組、それへの批判、代表的な各レジームの事例研究を学ぶ。後半では、近年のグローバルな緊縮財政の淵源と各国の生活保障システムに与えた影響、新しいリスク構造へのレスポンスである社会的投資をめぐる福祉政治を学ぶ。

到達目標

有用な研究課題の設定 (DP6)、研究能力及び基礎的発信力 (DP7)
 ・比較福祉政治の基礎的理論と代表的な実証研究を学び、それらの知見をもとに有用な研究課題を設定し、発信することができるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション 文献の解説 レジュメの作成方法	
	シラバスを読み、テキストを準備する。	60
第2回	鏡目真人・近藤正基『比較福祉国家一理論・計量・各国事例』	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第3回	鏡目真人・近藤正基『比較福祉国家一理論・計量・各国事例』	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第4回	鏡目真人・近藤正基『比較福祉国家一理論・計量・各国事例』	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第5回	エスピン＝アンデルセン、イエスタ『福祉資本主義の三つの世界－比較福祉国家の理論と動態』	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第6回	エスピン＝アンデルセン、イエスタ『福祉資本主義の三つの世界－比較福祉国家の理論と動態』	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第7回	エスピン＝アンデルセン、イエスタ『福祉資本主義の三つの世界－比較福祉国家の理論と動態』	
	第6回までの文献とレジュメを再読し、概要を解説出来るようにする。疑問的があれば書き出す。	90
第8回	エスピン＝アンデルセン、イエスタ『ポスト工業経済の社会的基礎－市場・福祉国家・家族の政治経済学』	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第9回	エスピン＝アンデルセン、イエスタ『ポスト工業経済の社会的基礎－市場・福祉国家・家族の政治経済学』	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第10回	新川敏光編著『福祉レジーム』福祉＋α、ミネルヴァ書房	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90

第11回	新川敏光編著『福祉レジーム』福祉+α、ミネルヴァ書房	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第12回	新川敏光編著『福祉レジーム』福祉+α、ミネルヴァ書房	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第13回	第12回までに精読した文献の概要を整理した上で、その文献に内在的な討論をする。	
	第12回までの文献とレジュメを再読し、概要を解説出来るようにする。疑問的があれば書き出す。	90
第14回	「平等」『現代政治理論（新版）』 アンソニー・B・アトキンソン（山形浩生・森本正史訳）『21世紀の不平等』	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第15回	アンソニー・B・アトキンソン（山形浩生・森本正史訳）『21世紀の不平等』	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第16回	アンソニー・B・アトキンソン（山形浩生・森本正史訳）『21世紀の不平等』	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第17回	ブライス、ブライス『緊縮策という病』	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第18回	ブライス、ブライス『緊縮策という病』	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第19回	ブライス、ブライス『緊縮策という病』	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第20回	ブライス、ブライス『緊縮策という病』	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第21回	Taylor, Gooby, Peter et al (eds.) After Austerity- Welfare Transformation in Europe after the Great Recession	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第22回	Taylor, Gooby, Peter et al (eds.) After Austerity- Welfare Transformation in Europe after the Great Recession	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第23回	Taylor, Gooby, Peter et al (eds.) After Austerity- Welfare Transformation in Europe after the Great Recession	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第24回	Taylor, Gooby, Peter et al (eds.) After Austerity- Welfare Transformation in Europe after the Great Recession	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90

第25回	Hemerijck, Anton (ed.) The Uses of Social Investment	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第26回	Hemerijck, Anton (ed.) The Uses of Social Investment	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第27回	Hemerijck, Anton (ed.) The Uses of Social Investment	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第28回	Hemerijck, Anton (ed.) The Uses of Social Investment	
	報告者はレジュメを準備する 報告者以外の受講生は、テキストを読み、コメント・シートを作成する	90
第29回	Hemerijck, Anton (ed.) The Uses of Social Investment	
	第13回以降28回までの文献とレジュメを再読し、概要を解説出来るようにする。疑問的があれば書き出す。	90
第30回	Hemerijck, Anton (ed.) The Uses of Social Investment	
	執筆予定の論文の題目、要約、研究の方法、参考文献リストをまとめる。	90

授業の方法

ゼミナール形式。履修者は課題テキストを予習し、毎回の授業の前にコメントシートを提出します。毎回の授業では、報告者がレジュメに沿って報告します。報告を受けて事前に提出されたコメントを中心とした討論形式で行われます。

成績評価の方法

課題への取り組み（レジュメ、コメントシートの提出状況など）50%、授業への取り組み（出席、討論への参加など）50%から総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

法学部の比較福祉政治、政治過程論、国際政治史を履修していることが望ましい。

テキスト

鏡目真人・近藤正基『比較福祉国家—理論・計量・各国事例』ミネルヴァ書房、2014年。
新川敏光編著『福祉レジーム』福祉+α、ミネルヴァ書房、2015年
エスピン-アンデルセン、イエスタ（岡沢憲英・宮本太郎訳）『福祉資本主義の三つの世界—比較福祉国家の理論と動態』ミネルヴァ書房、2001年。

参考書

エスピン-アンデルセン、イエスタ（渡辺雅男・渡辺景子訳）『ポスト工業経済の社会的基礎—市場・福祉国家・家族の政治経済学』、2001年。
ブライス、ブライス（若田部昌澄監訳）『緊縮策という病—「危険な思想」の歴史』NTT出版、2015年。
アンソニー・B・アトキンソン（山形浩生・森本正史訳）『21世紀の不平等』東洋経済新報社、2015年。
Taylor, Gooby, Peter et al (eds.) After Austerity- Welfare Transformation in Europe after the Great Recession, Oxford: Oxford University Press, 2017.
Hemerijck, Anton (ed.) The Uses of Social Investment, Oxford: Oxford University Press, 2017.
網谷龍介ほか編著『ヨーロッパのデモクラシー』（改訂第2版）ナカニシヤ書店、2014年。
久米郁男ほか『政治学（補訂版）』有斐閣、2011年。
久米郁男『原因を推論する—政治分析方法論のすすめ』有斐閣、2013年。
新川敏光ほか『比較政治経済学』有斐閣アルマ、2004年。

そのほか、演習内で随時紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	財政学特殊研究		
教員名	浅羽 隆史		
科目ナンバー	2060330043	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

財政学の理論的フレームワークを分析し、日本の実態を検証する。理論的フレームワークについては、ひとつの立場（たとえば現在アメリカで主流と呼ばれる新古典派）に拘らず、歴史的な経緯や学説の相違などにも注目する。日本の実態を検証するに当たり、最新のデータや制度を踏まえるとともに、他の主要先進国との国際比較を行う。

到達目標

DP6（有用な研究課題の設定）及びDP7（研究能力及び基礎的発信力）を実現するため、以下の2点を到達目標とする。

- ① 財政学について理論的に理解できるようになること
- ② 日本をはじめとした主要先進国の財政の実態を検証・分析し、把握することができるようになること

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス：講義の進め方、課題の提示、財政学の概説		
	問題意識の醸成		60
第2回	財政学とは：財政学の対象、財政学の起源		
	テキスト該当箇所及び参考文献の精読		120
第3回	財政学の展開と諸潮流		
	課題をまとめる		240
第4回	予算①		
	テキスト該当箇所及び参考文献の精読		120
第5回	予算②		
	課題をまとめる		240
第6回	租税①		
	テキスト該当箇所及び参考文献の精読		120
第7回	租税②		
	課題をまとめる		240
第8回	公債①		
	テキスト該当箇所及び参考文献の精読		120
第9回	公債②		
	課題をまとめる		240
第10回	歳出①		
	テキスト該当箇所及び参考文献の精読		120

第11回	歳出②	
	課題をまとめる	240
第12回	政府間関係①	
	テキスト該当箇所及び参考文献の精読	120
第13回	政府間関係②	
	課題をまとめる	240
第14回	財政投融资	
	テキスト該当箇所及び参考文献の精読	120
第15回	独立行政法人	
	課題をまとめる	240
授業の方法		
<p>財政学について理論的理解を深めることと日本や主要先進国の財政実態の検証のため、教員からの講義と受講者による課題報告を行う。多くの回で、テーマに関する課題を与える。課題の内容は、文献の読解、統計資料を用いた解説や分析、仮説の提示と検証などである。財政学について理論的理解を深めることと日本や主要先進国の財政実態の検証のため、教員からの講義と受講者による課題報告を行う。多くの回で、テーマに関する課題を与える。課題の内容は、文献の読解、統計資料を用いた解説や分析、仮説の提示と検証などである。</p>		
成績評価の方法		
<p>課題を含む平常点 割合100% 講義内容を理解：1/6(すべての講義で評価) 課題を全般的に実施：1/6(課題のある講義で評価) 先人の見解を十分踏まえた課題の報告：1/6(課題のある講義で評価) 独自の視点を含めた課題の報告：1/6(課題のある講義で評価) 説得力のある独自の見解をもった課題の報告：1/6(課題のある講義で評価) 特筆すべき点がある：1/6(すべての講義で評価) ※注意点 課題未提出の場合はF 出席（やむを得ない場合を除く）は単位付与の最低条件であり、それで成績が決まる訳ではない</p>		
成績評価の基準		
<p>成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2. 以下の点に着目し、その達成度により評価する。 講義内容を理解できているか、課題を全般的に実施しているか、先人の見解を十分踏まえた課題の報告をできているか、独自の視点を含めた課題の報告になっているか、説得力のある独自の見解をもった課題の報告ができているか、特筆すべき点があるか</p>		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
学部において財政学を履修していると理解が進み易い		
テキスト		
神野直彦(2007)『財政学 改訂版』有斐閣		
参考書		
第1回の授業において紹介する。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
学内専用ホームページで周知する。		

科目名	学際分野特殊研究 (科学の考え方Ⅰ)		
教員名	瀬戸 一夫		
科目ナンバー	2160310095	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要
 科学の考え方は、日常的なものの見方や考え方と、どこでどのようにに関係し、後者とどのように異なるのか。また、科学の客観性は、どのようにして成立するのか。これらの問題を、科学的な考え方が歴史のなかに登場した時代まで遡って検討し、その真相に迫る予定である。また、このことから得られた知見をもとに、現代科学が直面している諸問題を見直すために有効な視点を求める。

到達目標
 科学の歴史から学び、科学的な考え方の本質について検討することで、現代科学が直面している諸問題を発見し(DP2)、自学自習的にそれらを検討する(DP1)ことができる。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	ガイダンス 科目の趣旨を説明する。また、授業の進め方と狙いについて、解説する。	
	(予習)シラバスを読み、授業内容の概要をイメージしておく。 (復習)授業内容のイメージを修正し、自分に必要な予習の計画づくりをする。	30 30
第2回	経験的な知識について考える。	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。	60
第3回	科学の客観性はどのように成り立つのか検討する。	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。	60
第4回	草創期の科学的思考について考える。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第5回	科学的な説明の原型を追究する。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第6回	説明原理の役割を検討し直す。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第7回	古代の自然研究がもつ現代的な意義を考える。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第8回	近代科学の歴史的背景を探る。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第9回	近代科学の歴史的背景について検討する。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第10回	古代の自然研究と現代の自然科学を対比する。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60

第11回	自然科学の基本前提を見直す。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第12回	現代科学の問題点を探る。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第13回	現代科学の問題を近代合理主義との関係で考える。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第14回	科学の方法を再検討する。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第15回	現代科学が直面している諸問題を歴史的な観点から検討する。	
	(予習)今学期に学んだことを振り返り、質問したいことや、議論したいテーマを、各自で考えておく。	60

授業の方法

ゼミナール形式とする。各回の前半は、科学の歴史に関する基本的な文献を輪読し、後半は前以て指名された学生が特定のテーマでレポートする。また、レポートされた内容について、全員で議論する予定である。より具体的には、所定の教科書を読んで理解し、指定された箇所のレジュメ(スライド)を作成して他の出席者たちに配り、内容を解説し、質問に回答することが、レポーターの役割である。なお、授業の進捗によって、第2回～第14回の項目を入れ替える、あるいは変更する場合がある。

成績評価の方法

受講姿勢、レポート内容、質疑応答の積極性、およびその内容を、同じ割合(各25パーセント)で総合評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準(学則第11条の2)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

特に次のことを重視して評価する。

- ・ 自学自習的に科学の諸問題を考える姿勢が獲得されたか。
- ・ 科学の諸問題について議論する力量の有無。

必要な予備知識/先修科目/関連科目

特になし。

テキスト

瀬戸一夫著『科学的思考とは何だろうか』(ちくま新書) 740円
電子書籍版あり。

参考書

瀬戸一夫著『知識と時間』(勁草書房) 2,600円
その他、必要に応じて紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	学際分野特殊研究 (科学の考え方II)		
教員名	瀬戸 一夫		
科目ナンバー	2160310096	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要
 科学的な考え方は、日常的なものの見方や考え方で、どこでどのように関係し、後者とどのように異なるのか。これらの問題を、科学が革命的な理論転換を遂げた、過去の典型的な事例に沿って検討する。これにより、科学の今後に向けて、どのような見方や考え方が必要なのかを討議する。

到達目標
 科学の歴史から学び、科学的な考え方の本質について検討することで、現代科学が直面している諸問題を見直し、科学に関する問題を哲学的な観点からも捉えられる(DP1&DP2)。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 科目の趣旨説明	
	(予習)シラバスを読み、授業内容の概要をイメージしておく。 (復習)授業内容のイメージを修正し、自分に必要な予習の計画づくりをする。	30 30
第2回	専門的な知識と常識の関係	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。	60
第3回	運動の相対性	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。	60
第4回	仮説演繹法	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第5回	天動説の世界観	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第6回	地動説の実像	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。	60
第7回	科学と宗教	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。	60
第8回	コペルニクス革命の真相	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第9回	革命の死角	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。	60
第10回	ニュートンの根本的着想	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。	60

第11回	対称性と客観性	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。	60
第12回	. コペルニクス革命再考	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第13回	ニュートンの三法則に秘められた意味	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第14回	科学の排他性	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。	60
第15回	科学による生活世界の支配	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
授業の方法		
ゼミナール形式とする。各回の前半は、科学の歴史に関する基本的な文献を輪読し、後半は前以て指名された学生が特定のテーマでレポートする。また、レポートされた内容について、全員で議論する予定である。より具体的には、所定の教科書を読んで理解し、指定された箇所のレジュメを作成して他の出席者たちに配り、内容の解説、質問への回答をすることが、レポーターの役割である。なお、授業の進捗によって、第2回～第14回の項目を入れ替える、あるいは変更する場合がある。		
成績評価の方法		
受講姿勢、レポート内容、質疑応答の積極性、およびその内容を、同じ割合（各25パーセント）で総合評価する。		
成績評価の基準		
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2. 特に次のことを重視して評価する。 ・ 自学自習的に科学の諸問題を考える姿勢が獲得されたか。 ・ 科学の諸問題について議論する力量の有無。		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
特になし。		
テキスト		
瀬戸一夫著『科学的思考とは何だろうか』（ちくま新書）740円 電子書籍版あり。 瀬戸一夫著『コペルニクス的転回の哲学』（勁草書房）この本は購入しなくてよい。		
参考書		
必要に応じて、そのつど紹介する。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで周知する。		